

台湾情報誌

# 交流

2012年5月 vol.854

公益財団法人 交流協会  
Interchange Association, Japan



台北大都市圏で進む郊外化と日本企業の事業機会

# 交流

2012年5月  
vol. 854

## 目次

## CONTENTS

台北大都市圏で進む郊外化と日本企業の事業機会 (田崎嘉邦)	1
台北の歴史を歩く その13 中山南路を歩く (片倉佳史)	14
交流協会学生交流事業	24
日台特許審査ハイウェイについて	35
台湾留学生滞在記	37
【台湾内政、日台関係をめぐる動向】 民生問題に苦しむ馬総統、東日本大震災1年 (石原忠浩)	40
コラム:日台交流の現場から 何とはなしの既視感	51
編集後記	52

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### ● ● 交流協会について ● ●

公益財団法人交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も太宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

# 台北 大都市圏で進む郊外化と日本企業の事業機会

野村総合研究所 台北支店  
副総経理 田崎 嘉邦

台湾の不動産市況は、今後の人口増加が殆ど見込まれず、2011年7月には不動産取引に係わるぜいたく税（非自宅用不動産を取得後1年以内に売却した場合は売却額の15%、1年超2年以内の場合は10%が課税される）の導入が行われたにも関わらず、引き続き好調を維持している。これは、相続税の大幅引き下げに伴う台湾人の海外資産の還流、中国等で財を成した台湾人や企業の台湾回帰投資、中国人や企業による台湾投資「期待」等、政府の対外的な政策による影響が大きいと考えられる。こうした中、特に住宅価格の上昇が激しい台北大都市圏では、スプロール化現象が顕著になりつつあり、日本のバブル期に似た郊外での住宅開発や新都心整備が数多く計画されている。

本稿では、こうした台湾、特に台北大都市圏における不動産市況の状況とスプロール化の現状を分析すると共に、過去、日本において郊外型の街づくりや大型商業施設等の建設を行ってきた日本企業のビジネスチャンスについて考察する。

## 1. 成熟経済の中で成長を続ける台湾内需

2011年の台湾の実質GDPは、対前年比4.04%（台湾行政院主計処：2012年2月22日発表の確定値）成長となり、欧州の財政危機等による世界的

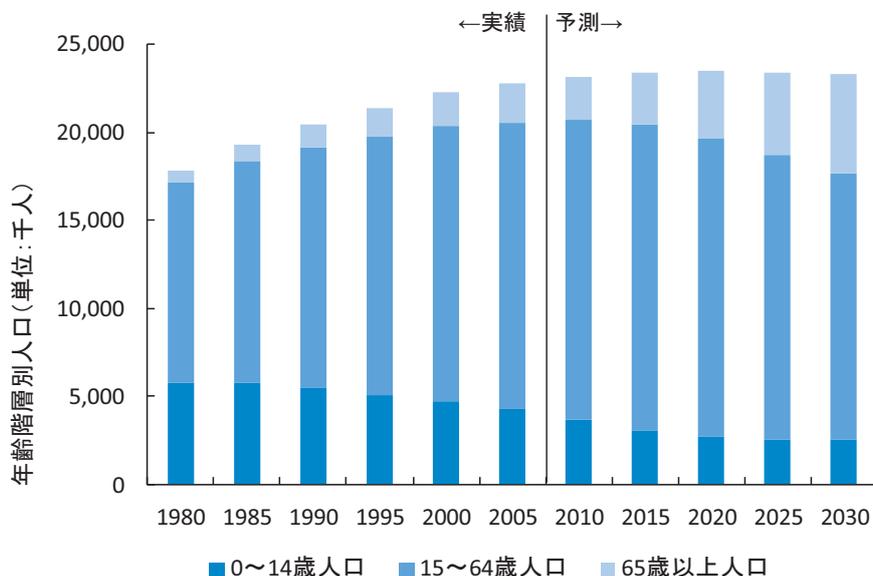
な景気減速の影響を受けつつも、4%台を維持した。2012年は、世界的な景気減速の影響から3.38%（台湾行政院主計処：2012年4月30日発表の見通し値）まで下がると予測されているが、第1四半期が底で、第2四半期以降は回復に向かうとの政府見通しとなっている。（図表1）

図表1 台湾の実質GDP成長率の推移及び見通し



出所) 行政院主計処資料より NRI 作成

図表2 台湾の人口推移及び見通し



出所) 行政院経済建設委員会資料より NRI 作成

一方で、不動産を始めとする台湾の内需を支える人口は、2010年の合計特殊出生率（女性が一生の間に子供を生む数）が0.89まで低下、2011年は中華民国建国100周年ということで1.07まで回復したものの、今後も引き続き極めて低い出生率が続くことが予想される。こうした中で少子化が急速に進行しており、今後は人口減少局面に入ると予測されている。行政院経済建設委員会の予測結果（中位推計）によると、台湾の生産年齢人口は2015年、総人口は2022年にピークを迎えると予測されている。（図表2）

このように人口の伸びが期待できない中で、内需の持続的成長を維持するために、台湾政府は周辺各国・地域、特に中国の成長力の取り込みや、海外の台湾人や企業マネーの台湾還流という政策を推進している。前者としては、中国からの観光客受入解禁（2008年7月）や中台間の直行便就航解禁（2008年12月）、中国資本による台湾投資の解禁（2009年7月）など、後者としては、最高税率50%であった相続税の一律10%への引き下げ（2009年より実施）、25%であった法人税の17%

への引き下げ（2010年より実施）などが挙げられる。

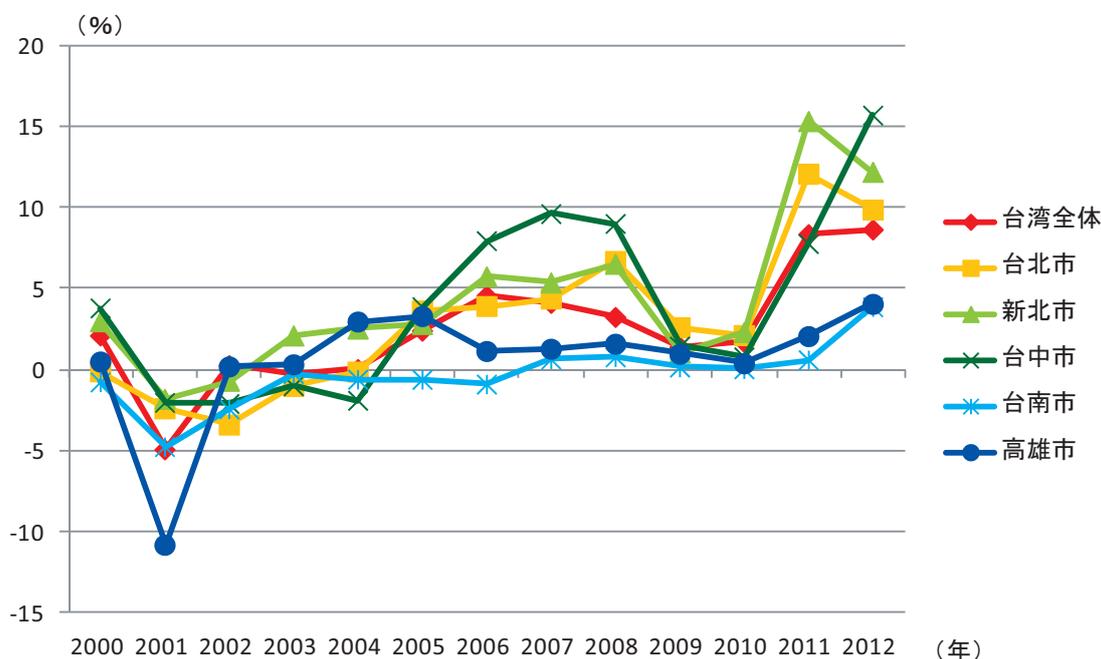
こうした政策の実施により、人口の伸びが期待できないにも係わらず、台湾の不動産市況は好調を維持している。

## 2. 上昇が続く台湾の地価

台湾全体の公示地価（公告土地現値：毎年1月1日に改定）の対前年伸び率をみると、2001年にITバブル崩壊の影響によってマイナス成長となった後、2005年以降再び上昇基調となっている。リーマンショックの影響によって2009、2010年は低い伸び率に止まったが、それでもプラス成長を維持した後、2011、2012年の公示地価は、対前年比で各々8.35、8.64%と急上昇している。

地域別には、特に台北市及び新北市（旧台北縣が2010年12月に改称）、台中市での上昇が目立つ。台北市は投資目的での住宅取得や中国人観光客の増加等で好調を維持している商業用不動産市場の影響で地価上昇が続いている。台北市の郊外に位置し、MRT（Mass Rapid Transit：地下鉄）

図表3 台湾の公示地価の対前年伸び率推移



注1) 台中市、台南市、高雄市の2011年以降の値は、各々、旧台中縣、台南縣、高雄縣と合併した後の値のため、2010年以前の値とは定義が異なる

注2) 新北市の2010年以前の値は、旧台北縣の値となっている  
出所) 「歴年公告土地現値及公告地価調幅統計表」内政部地政司

の整備によって台北市との間のアクセスが格段に向上しつつある新北市は、台北市のベッドタウンの位置づけが顕著になりつつあり、MRT沿線を中心に地価が高騰している。また、台中市についても、住宅や商業開発が活発に行われており、2012年の公示地価は対前年比15.7%の上昇と、高い伸びを示した。一方で、高雄市や台南市といった南部では、相対的に低い伸びに止まっている。(図表3)

### 3. 台北大都市圏における不動産市況

台湾の中で台北市と新北市は最近の地価上昇が激しいだけでなく、交通インフラ整備等に伴い、都市構造の変化が起こりつつある。このため、特にこの2都市を「台北大都市圏」と総称し、特に重点的に分析を行う。

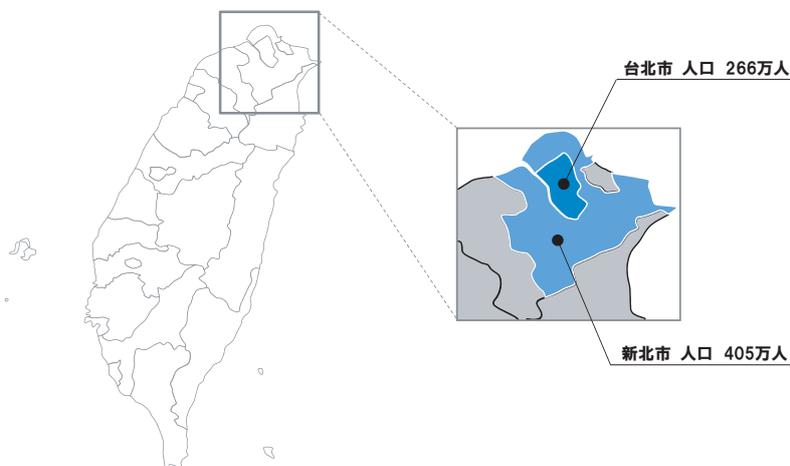
#### 1) 台北大都市圏の概況

台北大都市圏は、台北市を中心として、その外縁を新北市が取り囲むような形で形成されており、人口670万人(台北市266万人、新北市405万人:2011年)、台湾の総人口約2,300万人の3割弱が集中している。(図表4)

これまでの台湾は職住近接型のライフスタイルが一般的であり、台北市に職場を持つ人であれば、オフィスの近くに家を購入又は賃貸するケースが多かった。しかし、近年の台北大都市圏では、中心部から外縁部へと人口が流出する現象、いわゆる都市のスプロール化が進展しており、これまでの職住近接型のライフスタイルが崩れつつある。

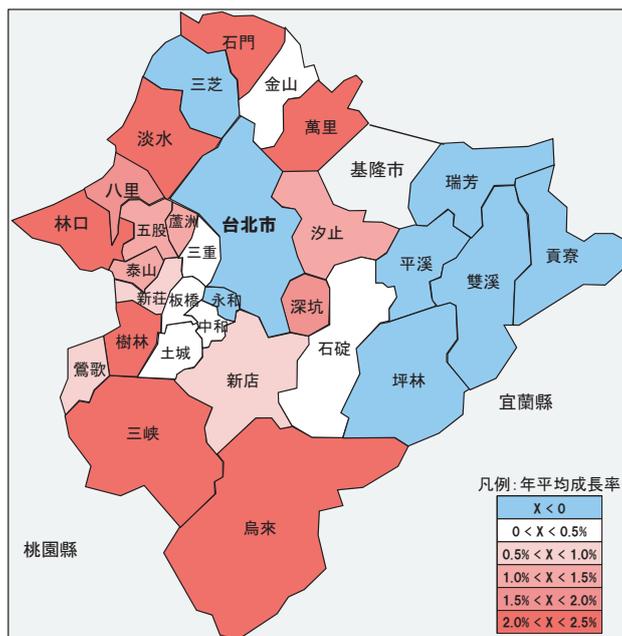
台北市の外縁部に位置する新北市では、これまで永和、中和地区が住宅地区として開発され、その後板橋、新店地区へと拡大し、現在では三重、蘆州、新莊地区でも住宅開発が進められている。その結果、過去5年間の人口の変化を見ると、大

図表4 台北大都市圏の位置と人口



出所) 行政院主計処統計より NRI 作成

図表5 最近5年間の台北市と新北市の行政区別人口増減率



出所) 内政部統計より NRI 作成

台北都市圏の中心部から外縁、特に西側の各市で人口が増加している様子が見て取れる。(図表5)

こうした人口の外部流出には二つの要因がある。一つは台北市内の住宅価格の上昇、もうひとつは捷運(MRT)路線の建設である。台北市内の住宅価格については後で詳しく述べるが、ほぼ一貫して右肩上がりですべての上昇を続けており、既に一般市民には手が出ない価格に達していることから、

台北市の外縁部に位置する新北市で住宅を購入する人が増えている。

もうひとつの人口流出要因である MRT は、1996年の木柵線(現在の文湖線)の開通に始まり現在では7路線にまで拡大している。2000年前後からは、台北市と新北市を繋ぐ放射状路線を中心に建設が進められており、板南線、新店線、蘆州線、新莊線と開通し、来年には空港線が開通す

図表6 台北大都市圏における MRT の整備状況及び見通し



路線	区間	開通年
文湖線	中山國中-動物園	1996年3月
	中山國中-南港展覽館	2009年7月
淡水線	淡水-台北駅	1997年3月
中和線	古亭-南勢角	1998年12月
新店線	台北駅-新店	1999年11月
板南線	龍山寺-市政府	1999年8月
	龍山寺-新埔	2000年8月
	市政府-昆陽	2000年12月
	新埔-永寧	2006年5月
	昆陽-南港	2008年12月
	南港-南港展覽館	2011年2月

路線	区間	開通年
蘆洲線	蘆洲-忠孝新生	2010年11月
新莊線	輔大-大橋頭	2012年1月
	忠孝新生-古亭	2012年6月
	迴龍-輔大	2014年11月
信義線	中正紀念堂-象山	2012年12月
土城線	永寧-頂埔	2013年12月
松山線	松山-西門	2013年12月
環狀線	新北產業園區-大坪林	2015年12月
桃園空港線	三重-環北	2013年6月
	台北車站-三重	2014年8月

出所) 台北市政府捷運工程局資料より NRI 作成

る見込みである。更に、今後も新北市内を結ぶ環状線や板南線の延伸などさらに路線網が拡充していく予定となっている。(図表6)

特に人口が増えているのは台北駅から半径5km~10kmの間である。このエリアの新北市側は新北市役所がある板橋区を始めとして、副都心計画が進む新莊区、中央政府の一部機関が移転した新店区等、注目される地域が並んでいる。また、このエリアには環状道路が走っており、MRT環

状線も建設中となっていることから、台北市中心部へのアクセスだけでなく、各区の間のアクセス向上も見込まれる。

こうしたスプロール化の状況は、1980年代後半のバブル期に郊外化が進んだ東京や大阪周辺と良く似ている。台湾の1人当たりGDPは2011年に2万US\$を初めて突破した。日本の1人当たりGDPが2万US\$を突破したのは1987年であったが、現在の台北大都市圏は、その頃の日本の東

京や大阪周辺と良く似ているように思われる。

## 2) 住宅市場の状況

### (1) 住宅価格の状況

台北大都市圏の住宅価格は、2003年以降、リーマンショックによる世界的な金融危機の影響を受けて台湾の経済成長率がマイナスに落ち込んだ2009年を除き、一貫して上昇している。台北市及び新北市共に、2011年には2003年時点の約2倍に高騰している。(図表7)

エリア別の住宅価格をみると、台北市については、台北市役所や101ビルがある信義地区では150~200万NT\$/坪、有名中学や高校が立地し、良い住環境で知られる大安地区では120~160万NT\$/坪となっており、その他の地区でも100万NT\$/坪近い価格となっている。台湾の場合、マンションの共有部分やバルコニーも住宅面積に算入されるため、日本と同じ専有面積のみの価格に換算すると、500万円/坪以上となり、東京都心部と同程度の高級住宅が販売されていることとなる。このため、一般の人々が台北市内に住宅を購入するのは極めて難しい状況にある。

一方、新北市でも、MRT駅周辺の住宅価格は高騰している。新北市政府がある板橋地区では

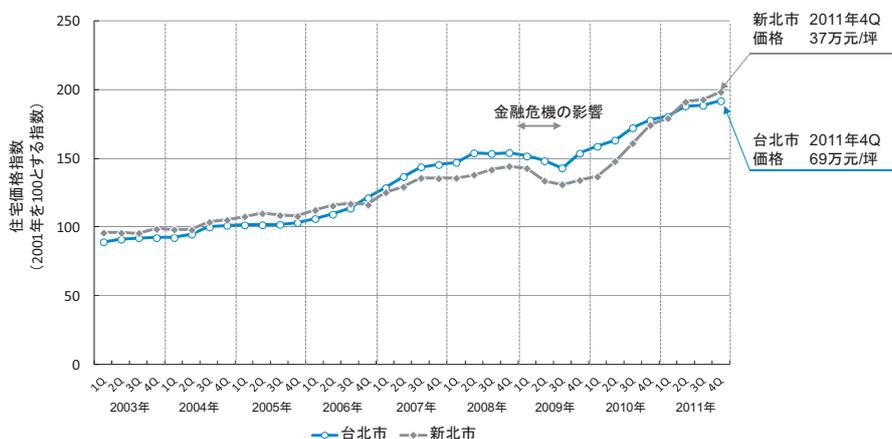
70~85万NT\$/坪と台北市内に近い価格帯となっており、その他の地区でも40~50万NT\$/坪程度となっている。この価格帯でも、一般の人々にとっては極めて高価であるが、台湾の場合、世帯年収の10倍程度の住宅を購入することは一般的であるため、何とか手が出るレベルと言えよう。(図表8)

### (2) 住宅供給の状況

建物の建設の際に必要な建設ライセンスの発行件数・戸数をみると、台北市、新北市共に2007年頃をピークに減少傾向にある。台北市の建設ライセンスの発行件数及び戸数は、2007年には397件、13,118戸まで増加したが、2010年には254件、6,843戸と半分程度まで減少した。一方、新北市の場合、建設ライセンスの発行件数は2007年に706件、発行戸数は2006年に36,818戸とピークに達した後に急減し、2009年には327件、9,903戸まで落ち込んだ。しかしながら、2010年には418件、13,314戸と、若干回復している。(図表9)

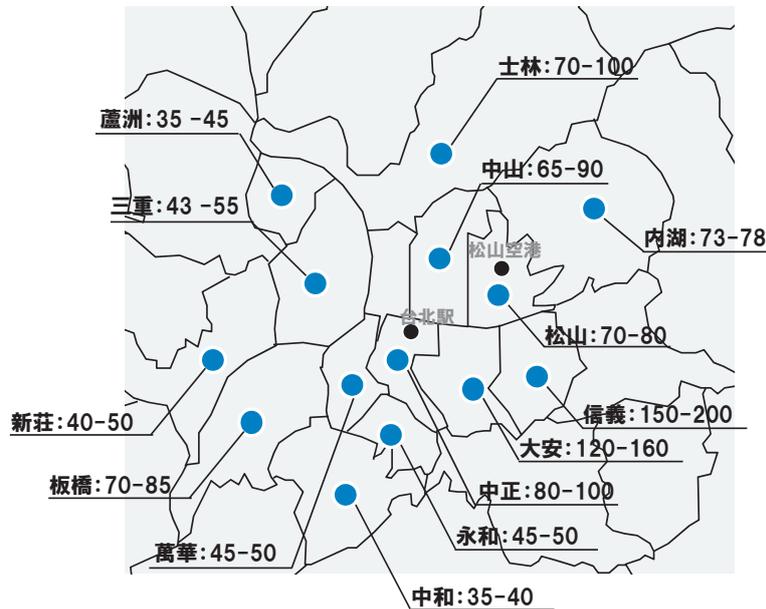
台湾の住宅は、特に北部はマンションが中心であるため、着工から完成まで2年程度を要するとすると、今後の住宅供給量は減少していくことが予想される。しかしながら、特に新北市について

図表7 台北大都市圏の住宅価格の推移



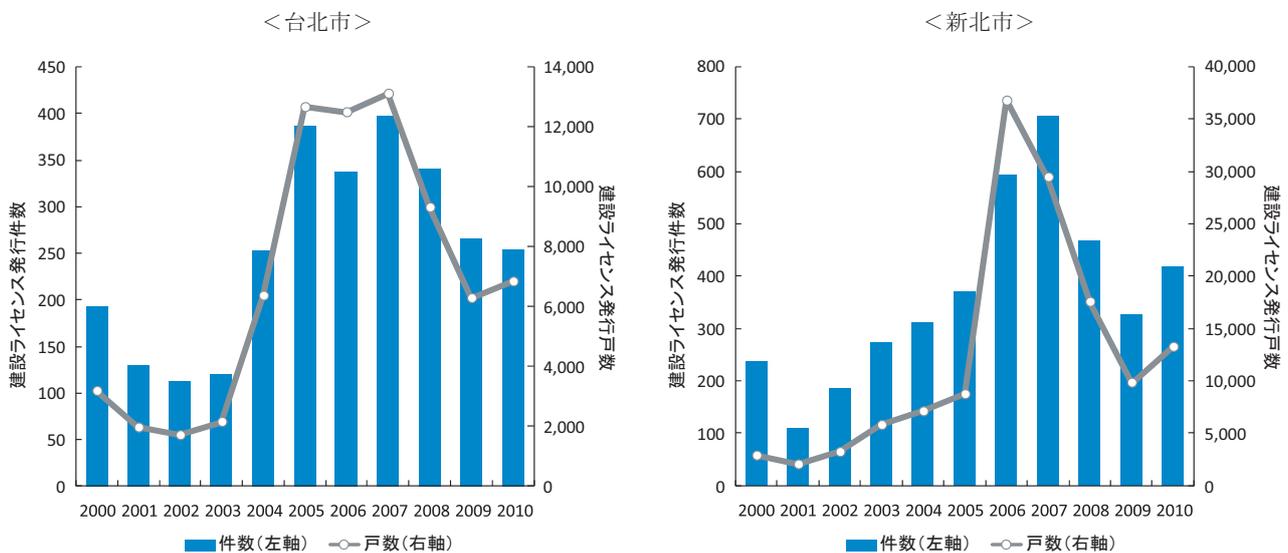
出所) 國泰建設「國泰房地產指數季報」より NRI 作成

図表8 台北大都市圏の主要地点における住宅単価（単位：万 NT\$/坪）



注) 各地点の価格は主要 MRT 駅周辺の価格相場を示している  
出所) 住展房屋網より NRI 作成

図表9 台北大都市圏の住宅建設ライセンスの発行件数及び戸数の推移



出所) 内政部営建署統計より NRI 作成

は、新規の開発用地が数多く残っていると共に、MRT の延伸も行われていくことから、今後、再び住宅供給量が増加していくことも十分ありえよう。

## 2) オフィス市場の状況

### (1) 主なオフィスエリアの状況

現段階における台北大都市圏の主なオフィスエリアは、台北市内に集中している。新北市については、市役所が置かれている板橋区周辺等が新しいオフィスエリアとして出てきており、日系企業

図表 10 台北市内の主要オフィスエリア



出所) 台地区房地產年鑑等資料より NRI 作成

でもユニクロ等が現地法人のオフィスを設けているものの、台北市内に比べるとオフィス向けの賃貸床面積は未だ少ない。

台北市内の主なオフィスエリアは、台北駅エリア、中山北エリア、松江南京エリア、敦化民生エリア、敦南エリア、信義エリア、内湖科技園區エリアの7つが挙げられる。台北市は西から東に向かって市街地が拡大してきた経緯があるため、台北駅エリアや中山北エリアは古く、信義エリアや内湖科技園區エリアは新しいオフィスエリアとなる。(図表 10)

台北駅エリアは、台湾鐵路(国鉄)、MRT、高速鉄道の3路線が交差する台北駅を中心とした地区であり、金融保険業、政府機関が集積している。ここは市内で最も早くオフィス開発が進められたエリアであり、老朽化が進んでいるビルも多いことから、再開発計画も複数動いている。中山北エリアは、オフィスとともに商業施設、ホテル等が集積するエリアであり、日本企業のオフィスも多く立地している。松江南京エリアは、市内でオフィス密度が最も高いエリアであり、多くの日本

企業のオフィスが立地している他、伝統産業、金融サービス業、旅行業が多く集積している。敦化民生エリアは、信義区に次いで多くの高級オフィスが集まるエリアであり、金融サービス業が集積している。また、松山空港の国際化にともない交通利便性が大きく向上したエリアでもある。敦南エリアは、有名企業や外資企業が多く集積しているエリアであり、金融業以外、伝統産業も多く、交通利便性を背景に住商混合エリアとして発展している。信義エリアは、信義計画区として再開発が進められたエリアであり、市内で最もオフィス賃料が高くなっている。エリア内には台北市役所等の行政機関の他、金融、貿易展覧、レジャー、住宅等の機能が集積しており利便性の高く、IBMやマイクロソフト、シティバンクなどのグローバル企業も多く入居している。内湖科技園區エリアは、台北市政府が科学技術園区としての発展を目指しているエリアであり、IT産業の本部が多く集積している。以前は交通の便が悪かったが、MRTの延伸に伴い、交通利便性が大きく向上した。

(2) オフィス賃料及び空室率の状況

台北市のオフィス賃料は、高い住宅価格に比べて、非常に安くなっている。最も賃料が高い信義エリアのA級オフィスでも3,000NT\$/坪/月に満たず、その他のエリアでは2,000~2,500NT\$/坪/月程度である。(図表11)

台湾のオフィスは、住宅同様、共有部分も賃賃面積に含まれるため、日本の基準に合わせると1.5倍程度の賃料にはなるものの、それでも1万円/坪/月程度の賃料水準に止まっていることにな

図表 11 主要オフィスエリアの空室率及び賃料 (2011年第1四半期)

地域	空室率 (%)	A級オフィス平均賃料 (NT\$/坪/月)	B級オフィス平均賃料 (NT\$/坪/月)
台北駅エリア	8.4%	2,200	1,685
中山北エリア	6.6%	---	1,771
松江南京エリア	8.7%	1,952	1,681
敦北民生エリア	11.9%	2,310	1,709
敦南エリア	10.5%	2,439	1,728
信義エリア	17.6%	2,831	1,648

出所) CBRE データより NRI 作成

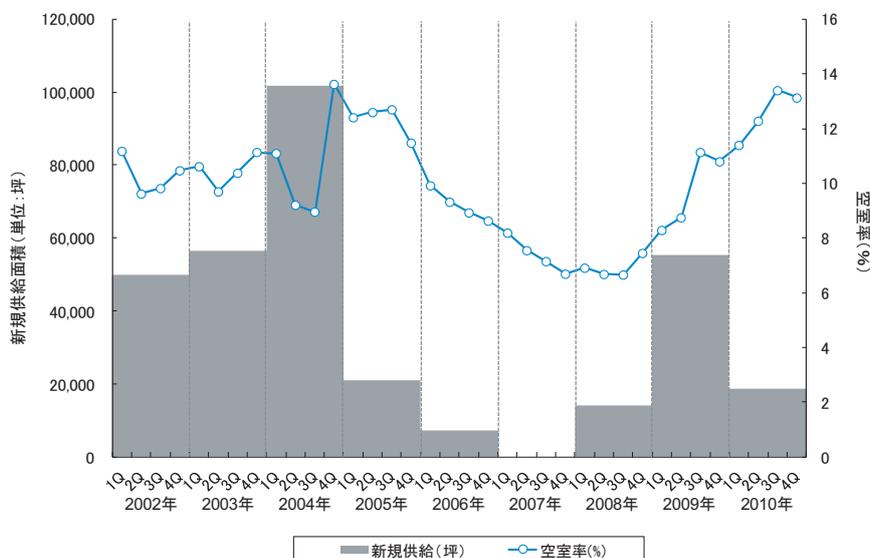
る。空室率も10%前後となっており、オフィス賃貸事業として、十分な利回りが確保しづらい状況にある。

(3) オフィス供給量及び空室率の推移

台北市内のオフィス供給量は、台北101等の大型ビルが開業した2004年に約10万坪と急増したが、同時に空室率も13.6%まで跳ね上がった。その後、オフィス供給量は大きく絞られ、2007年には供給がゼロという状況にまでなり、2007~2008年にかけて、空室率も6%台まで下がった。しかしながら、その後、オフィス供給が再開する一方で、新北市のような郊外へのオフィス移転も始まってきたことから空室率は再び上昇に転じ、2010年末には再び13.1%まで悪化している。(図表12)

今後のオフィス供給については、台北市内のオフィス建設ライセンスの発行状況から推察できる。台北市内のオフィス建設ライセンスの発行件数及び延べ床面積の推移をみると、2002年の建設ライセンス発行延べ床面積は約93万㎡と大きく増えて、2004年の大量供給に繋がっていると考え

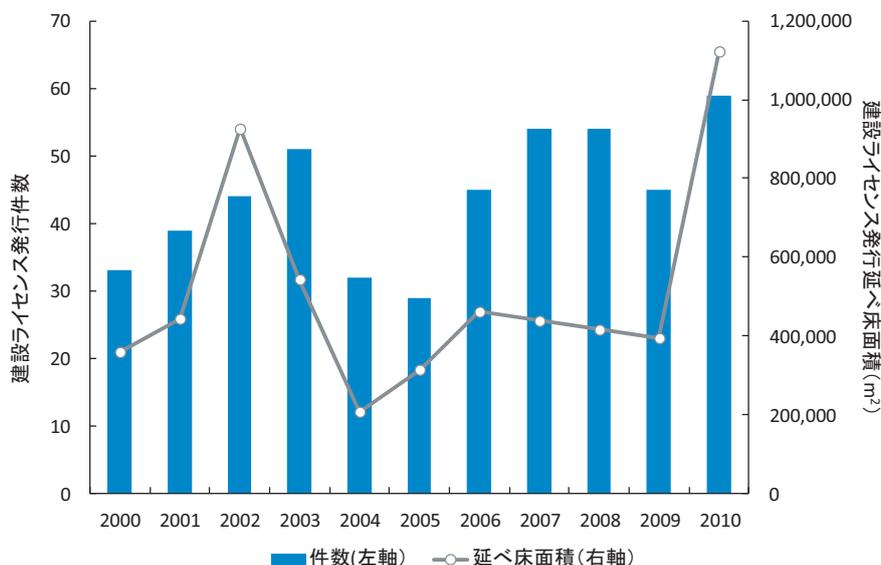
図表 12 台北市内の新規オフィス供給量と空室率の推移



注) 棒グラフは年間合計の新規供給面積を表す

出所) 台湾地区不動産年鑑より NRI 作成

図表 13 台北市内のオフィス建設ライセンスの発行件数と延べ床面積の推移



出所) 内政部営建署統計より NRI 作成

られる。その後、建設ライセンス発行延べ床面積は急減し、年間 20~40 万 m<sup>2</sup>程度で推移したものの、2010 年には約 112 万 m<sup>2</sup>と、2002 年を上回る規模となっている。こうしたことから、今年から来年にかけて、再び多くのオフィスが供給される可能性がある。但し、建設ライセンスを取得しても、市況を見ながら着工のタイミングを調整することもあり得ることから、現在の高い空室率を勘案すると、一時期に大量のオフィス供給が行われるとは限らないであろう。(図表 13)

### 3) ホテル及び商業施設市場の状況

ホテル及び商業施設市場は、急増している中国人等の海外からの来訪者数を背景に好調を維持している。海外から台湾への来訪者数は、中国人の来台が解禁された 2008 年の 385 万人から 2011 年には 609 万人へと、僅か 3 年で 1.6 倍弱まで増加した。特に中国人の来訪者数は、解禁後 4 年で 178 万人となり、それまでの最大の来訪者数であった日本を抜いて第 1 位となっている。(図表 14)

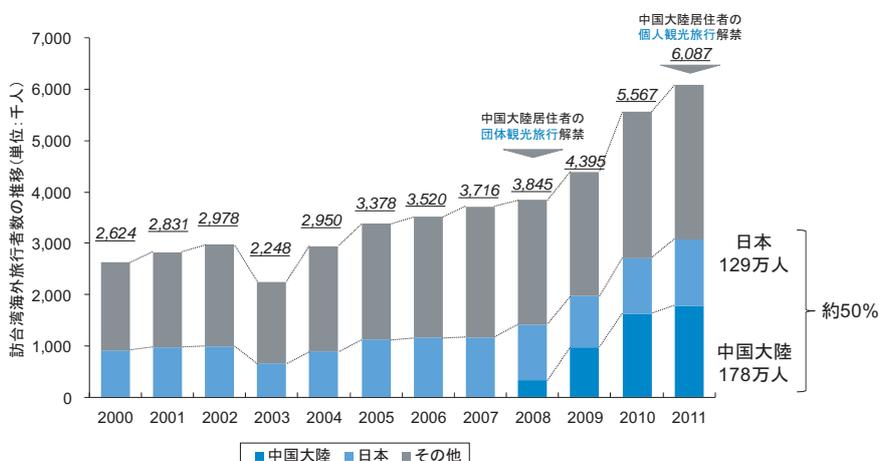
中国人の来台は、2008 年 7 月に団体旅行が解禁

された後、2010 年 7 月には中国全土からの団体旅行が解禁された。次いで、2011 年 6 月には、北京市、上海市、福建省廈門 (アモイ) 市の 3 都市に限定して個人旅行が解禁され、2012 年 4 月には天津市、重慶市、江蘇省南京市、広東省広州市、浙江省杭州市、四川省成都市の 6 都市が新たに追加された。更に、2012 年末までに、山東省済南市、陝西省西安市、福建省福州市、広東省深圳市の 4 都市も追加される予定となっている。

このような状況を背景に、台北市内のホテルは高い客室稼働率となっている。台北市内の観光ホテルの客室数は 2009 年の 9,095 室から 2011 年には 10,363 室へと 1,000 室以上増加したが、客室稼働率は上がっており、2010 年には 75.6%に達している。台湾のホテルは日本同様、宴会需要が存在するため、75%以上の平均客室稼働率は非常に高い水準と言える。(図表 15)

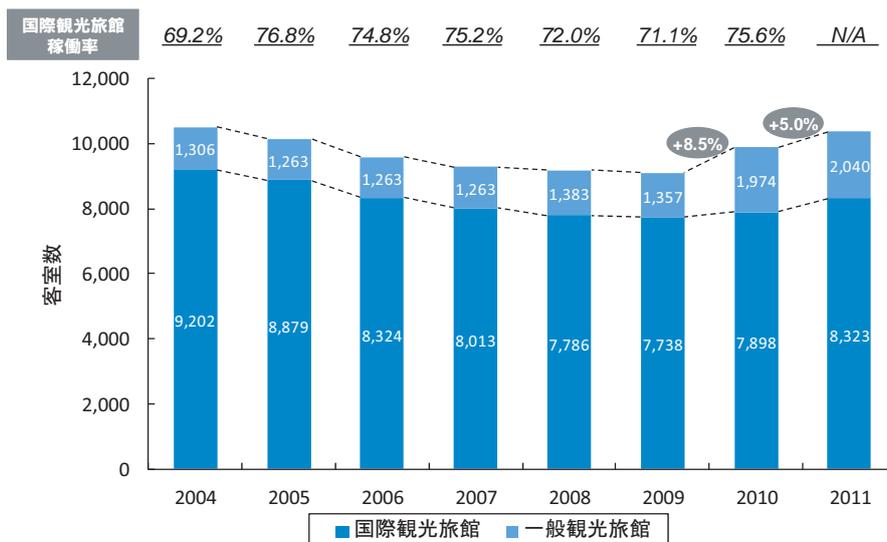
旺盛な宿泊需要を背景に、台北市内では新規ホテルの建設が進んでいる。今年の夏には日本のホテルオークラ系列のオークラプレステージ台北が市内中心部にオープンする。また、マンダリンオリエンタルホテルや大直福華飯店等の大型ホテル

図表 14 海外から台湾への来訪者数の推移（居住地別）



出所) 交通部観光局統計年報より NRI 作成

図表 15 台北市内の観光ホテル客室数と稼働率の推移



注) 観光旅館とは交通部観光客の定め得る基準に適合しているホテルを指し、その水準により国際観光旅館と一般観光旅館とに分類される。2011年12月末現在、台北市内の国際観光旅館は25軒である。

出所) 交通部観光局統計より NRI 作成

の建設も進んでいる。一方で、台北市には新規のホテル建設に適した用地が少なくなっていることから、既存のオフィスビルやカラオケボックス等を改装して、客室数100室以下の小型ホテルとしてオープンさせる例も増えている。このため、今後は、新北市でもホテル建設が増加してくることが予想される。

一方、商業施設も好調が続いている。台北市内の主な商業エリアの賃料は、2～3万NT\$/坪/月（路面店1階部分）程度になっているところも出てきており、上昇率も1年間で1.5倍程度に達する例もみられる。また、商業店舗の売買でも、2012年1月にはユニクロやZARAの旗艦店が並ぶ忠孝東路沿いの1階路面店舗が1千万NT\$/坪

強で売買されたとの報道も出ており、高騰が続いている。

大型の商業施設の建設も継続している。新光三越や統一阪急等の百貨店や専門店が多く立地する台北市の信義地区では、微風広場(Breeze Center)や momo 百貨店が建設される予定となっている。新北市においても、MRT 板橋駅前に遠東百貨店の旗艦店がオープンする等、百貨店や専門店の建設計画が続いている。

#### 4. 新北市で進む都市開発

これまで見てきたように、台北大都市圏でのスプロール化が進展し、新北市において大型商業施設の新規オープンも出てきている。今後は、オフィス機能の一部移転等の例も出てくる可能性がある。

こうした中で、新北市では将来の MRT 路線計画に合わせた都市開発計画を策定しており、それぞれの計画への企業誘致も同時に進めている。

先日、3月2日には日本で投資説明会を開催し、100社近い日本企業が説明に参加した。この説明会については台湾の新聞等でも大きく報道されており、特に空港 MRT の開業で今後発展が期待される林口地区（行政区域は林口区（図表6参照）；MRT 空港線で台北駅から15分程度で結ばれる予定）での商業施設開発に対して日本企業が興味を抱いていると報じられた。林口の商業施設開発は公有地に政府が地上権を設定・譲渡し、民間が土地開発および施設運営を行なうという開発方式が採られ、既に入札が公示されている。開発内容は国内最大のアウトレット施設を核とした、ホテル、アミューズメント施設などの複合開発が予定されており、完成すれば台北大都市圏で数少ない郊外型商業施設となる。

さらに新北市では林口地区以外にも多くの都市開発計画とそれに伴う企業誘致が進められている。特に開発規模の大きい計画は、台北港特定区

開発（行政区域は八里区（図表6参照）、新莊北側知識産業園区開発（同、新莊区）である。

台北港は淡水河の河口西岸に位置する新たに開発が進められている港湾であり、大型のコンテナ貨物船が入港できる大水深の埠頭を備えている。この台北港周辺を大規模に開発しようとするのが、台北港特定区計画である。計画規模は約135ヘクタールであり、この範囲の用地を政府が買い上げ新たな都市を開発する計画である。将来的にはこの計画用地と淡水地域とは橋で結ばれる予定であり、観光地にも、桃園空港にも、さらには台北市内に対しても交通アクセスが優れているという立地特性を活かした開発が計画されている。今後は土地の徴収計画を進めるとともに、開発を担う民間企業の誘致活動が進められる。

また、新莊北側知識産業園区は空港 MRT の新北産業園区駅の北側に計画されている。新北産業園区駅は、新北市の主要都市を繋ぐように計画されている MRT 環状線も乗り入れる交通結節点である他、新莊副都心に隣接した用地であり、今後新北市の副都心機能を担うエリアとして発展が期待されている。開発規模は約28ヘクタールであり、園区内には住宅区、商業区、産業専用区を配置する計画となっている。

#### 5. 日本企業の事業機会

以上のように、台北大都市圏では MRT の整備や中心部の不動産価格及び賃料の上昇に伴いスプロール化が進みつつあり、その受け皿となっている台北市の郊外に位置する新北市では、多くの都市開発計画が進行中である。こうした状況は、日本のバブル期と良く似ているが、市場が国内のみに閉じていた日本とは異なり、台湾の場合は中国からの投資や来訪者が未だ解禁されたばかりであり、経済的に一体化しつつある中国のポテンシャルを活かせる余地を多く残している。これは、台湾に先駆けて中国と経済的に一体化した香港やマ

カオを見ると、可能性の大きさを推し測ることができよう。

こうした中で、台北大都市圏における都市の郊外化は、今後も継続することが予想される。台湾では、これまで郊外型の住宅や商業施設等はなかなか成り立たないと言われていたが、台北大都市圏では、漸く成り立つ状況が出てきたと考えられる。しかも、過去の日本と同様、都心部の地価高騰と交通インフラ整備によって郊外化がもたらされていることから、日本の経験が十分に生かされると考えられる。逆に、台湾企業は、こうした郊外型の街づくりや複合開発の経験が殆ど無いことから、日本企業が蓄積しているノウハウに対する期待も大きい。また、人口 2300 万人のうち、毎年 100 万人以上が日本を訪れる台湾人は、日本の主要な都市開発プロジェクトを良く知っていると共に憧れを抱いていることから、台湾での「日本ブランド」価値は高い。

一方で、IT や環境関連技術を組み合わせたスマートシティの計画が日本を始め、世界中で推進されている。日本は、こうした分野でも世界最先

端を走っており、高い技術力と、個々の製品を都市機能として組み上げるノウハウを有している。こうした日本の新旧のノウハウ、即ち過去の日本の郊外型の街づくりや複合開発のノウハウと、スマートシティ等に代表される現在のノウハウを組み合わせた、新しい街づくりを行っていくことは、台湾にとっても重要な意味を持つことになる。しかも、スマートシティの構成要素である太陽電池やリチウムイオン二次電池等は、台湾企業が強みを有する産業分野であり、台湾の部品産業集積と日本の都市インフラ構築力は、互いに補完関係を築くことが出来る可能性がある。

以上のように、日本企業にとっての台北大都市圏における街づくりや複合開発プロジェクトへの参加は、単に台湾だけでの事業機会獲得に止まらず、将来的に、中国やその他の新興国における事業展開を含めた、国際競争力のある新たな日台連携の仕組み構築という意味で、大きな発展可能性を秘めていると言えよう。今後、こうした視点も踏まえた新たな日台連携の仕組みが構築されることを期待したい。

## 中山南路を歩く

片倉 佳史

人口260万を数える台北。発展を続けるこの町の歴史を辿ってみよう。連載13回目となる今回は、中山南路を中心に、付近に点在する日本統治時代の歴史建築の数々を紹介してみたい。

### 片側三車線、「三線道路」と呼ばれた道

連載第1回目でも紹介したように、現在、中山南路と呼ばれる幹線道路は旧台北城の城壁があった場所に敷かれている。日本統治時代が始まる前、台北は周囲に城壁が設けられており、その内側に町並みが広がっていた。

この城壁は現在の忠孝西路、中華路、愛国西路、そして中山南路である。いずれも城壁が撤去された後、敷地が道路として整備されている。これは片側3車線を誇っていたことから、「三線道路」と呼ばれていた。街路樹が設けられ、道路そのものが公園のような雰囲気だったため、台北を代表する景観にも挙げられていた。

三線道路の竣工は1909（明治42）年とされる。城壁は撤去され、運び出された石材は上下水道の整備などに用いられた。そして、一部が台北監獄



三線道路。台北城の城壁は撤去されて道路となった。車が少なかった時代、片側三車線の道路は非常に珍しかった。中山南路を北上すると中山北路で、これを合わせて勅使街道、もしくは御成道路と呼ばれた。

の塀に用いられた。この塀は監獄そのものが移転した現在も残っており、金山南路の中華電信中山大樓の脇で目にできる。現在は台北市が指定する古蹟でもあり、保存されている。

### 監察院—珍しいビザンチン様式の庁舎

台北市内には数々の歴史建築が残っている。多くが日本統治時代に設けられた官庁建築だが、その中で優雅さを競うのであれば、この建物を上回るものは多くない。忠孝東路と中山北路の交差点、台北市の東西南北を結ぶメインルートが交わる地点に建つ建物である。

中華民国監察院として使用されているこの建物は、日本統治時代に台北州庁として造営された。赤煉瓦の落ち着いた色合いを基調とし、花崗岩の白い帯を巡らせている。このスタイルは連載第10回で紹介した「辰野式」の流れをくんでいる。明治の建築王、辰野金吾にちなんだもので、台湾総督府（現総統府）や台湾総督府医院（現国立台湾大学医院旧館）などに通じるデザインである。

建物の正面に立ってみると、中央には大きなドームが据えられ、その脇を小ドームが固めている。こういったスタイルは台湾では例が少ない。大小のドームが並ぶこのスタイルはビザンチン様式と称されている。

ドームは当初は銅葺きだった。銅は高価ではあるが、腐食に強いので、官庁建築や寺社建築、高級住宅などの建築資材として用いられた。また、本来は赤銅色をしているが、二酸化炭素との反応



監察院。台湾を代表する官庁建築の一つだった。大小のドームを併せ持つ独特なたたずまい。事前申請をすれば、館内の見学も可能。夜間にはライトアップも施される。

により、緑青色に変化していく。こういった100年がかりの色の变化も見込んで銅板が採用されたという。つまり、どの時代であっても、見る者に新鮮な印象を与えられることを見込まれていたのである。しかし、残念ながら、この建物の銅葺き屋根は改修時に失われてしまった。

### 森山松之助が手がけた瀟洒な建造物

この建物の竣工は1915（大正4）年のことだった。同年4月24日に新庁舎移転の式典が挙行されている。建坪数は1075坪。なお、両翼部についてはやや遅れ、1925年に増築された。総工費は27万円という記録が残っている。

設計を担当したのは台湾総督府技師の森山松之助であった。森山は辰野金吾の弟子であり、台湾建築界に最も大きな影響を与えた人物とされる。1907（明治40）年から台北に暮らし、台湾総督府庁舎の設計に携わったほか、台中州庁（現台中市政府）、台南州庁（現国立台湾文学館）など、官庁建築を多く手がけた。

建物自体は往時の姿を保っているが、手狭になってしまったこの建物を補完するべく、後方には8階建てのビルが設けられている。この高層建築が設けられた際、歴史建築の持つ風格を壊さぬよう、塗装や配色に細心の配慮が払われたという。



中央の大ドームを内部から見る。竣工時、ドームの外面には銅板が葺かれていた。

そんな努力もあって、老建築の尊厳は保たれているように見える。

1995年3月28日には台北市が指定する古蹟となり、保存対象となった。外観は常時見学ができ、館内も事前に申請をすれば見学が可能だ。中国語か英語のみとなるが、解説員もいる。

### 消えた大島久満次の銅像

建物の前には、かつて大きなロータリーが設けられていた。そして、中央部には銅像が立っていた。これは第5代台湾総督府民政長官を務めた大島久満次（くまじ）の像で、石組みの台座の上にブロンズ製の像が立っていた。道路面よりも1・2メートル高い位置にあったため、よく目だったようである。鑄造は齋藤成美、台座の設計を担ったのは森山松之助と井手薫だった。

大島久満次は1908（明治41）年5月から1910年8月まで台湾総督府民政長官の地位にあった人物である。もともとは法務課長や警察本署署長などを務め、抗日勢力の制圧に深く関わっていた。1908年5月に民政長官となったが、2年あまりで



監察院（旧台北州庁）を遠望する。かつてロータリーと大島久満次の銅像があった場所は完全に整地されており、往時を偲ぶことはできない。



日本統治時代に撮影された古写真。建物の前に立っているのは第5代民政長官大島久満次の像。

台湾を去る。その後は神奈川県知事などを務めた。

銅像はもちろんのこと、現在はロータリーがあったことも全く想像できないほどの変貌ぶりである。また、戦後の話ではあるが、このロータリーから見て、中山北路の北側には高架橋が設けられていた。これは鉄道線路を跨ぐためのものだったが、鉄道が地下化されると、これも無用となり、取り壊された。現在、鉄道用地には市民大道という道路が走っている。

## 行政院—かつての台北市役所を訪ねる

忠孝東路を挟んで監察院に対峙するこの建物は台北市役所として建てられた。現在は中華民国行政院の庁舎となっている。建物の竣工は1940（昭和15）年で、翌年から使用されている。つまり、

竣工からわずか5年足らずで終戦を迎え、中華民国に接收された歴史をもつ。

監察院は比較的、開放的な雰囲気だが、こちらは前庭を擁し、奥まっているためか、やや重苦しい空気が漂う。警備員が常駐していることもあり、緊張感も禁じ得ない。

デザインは無駄を排したシンプルなもの。建坪数は1122坪という記録が残る。1936（昭和11）年に2カ年事業として造営が計画され、翌年から工事が始まっている。竣工はやや遅れて1940（昭和15）年。設計は台湾総督府営繕課技師の井手薫であった。総工費は当初120万円が計上されていたが、最終的には151万円という巨費が投じられている。

正面中央部は4階建てとなっているが、両脇の部分は3階建て。戦後も建物自体が大きな改修を受けることがなかったため、ほぼ原型を保っている。前面のベランダも、すっきりとした印象を与えている。すでに機能が重視された時代で、鉄筋コンクリート構造の建築物が普及していたこともあって、古さのようなものはほとんど感じない。

表面には黄土色の地味な色合いのタイルが貼られている。タイル自体はすっきりとした色合いだが、明るいイメージはない。これは台北高等法院（現司法院）や台北公会堂（旧中山堂）と同様、国防色と呼ばれた色合いである。国防色と言えば、浅緑色かこの黄土色が多く見られるが、空襲を意



行政院全景。台北の市制施行は1920年。戦後は228事件の舞台にもなった。



大講堂の様子。東面と西面に中庭が広がっており、屋内からは常に緑が感じられるように配慮されている。

識せざるを得なかった当時の世相が見え隠れしている。

## 台北市の歴史

台北は1920（大正9）年7月30日に市制が公布されている。これは同年10月1日から施行され、台北市となった。この時には台中と台南が市となり、これが台湾で最も早く市制を敷いた都市となった。台湾南部最大の都市である高雄はやや遅れ、1924（大正13）年12月25日に基隆とともに、市に昇格している。

この建物が台北市役所として機能したのは、終戦までのわずか5年である。中華民国政府に接收されると、1945年9月1日に台湾省行政長官公署と改められた。その後、1947年には台湾の戦後最大の悲劇とされる228事件が勃発。外省人による腐敗政治と横暴を非難する人々が押しかけ、時の行政長官陳儀（後に国民党政府によって銃殺刑）に抗議をした。ここはそういった歴史の現場でもある。

市役所の機能は戦後の約半世紀、旧台北市建成小学校の校舎に移されていた。そして、1994年に信義新都心地区の現庁舎が完成している。長い時間、この学校建築が台北市政府を名乗っていたためか、台北市民でも若い世代を中心に、旧建成小学校校舎が日本統治時代の市役所だったと勘違い

していることが多い。なお、現在、この校舎は台北市當代藝術館の名で、モダンアートを展示・紹介する美術館となっている。

## 古蹟として参観が可能となった

現在、この建物は毎週金曜日に限って、内部の参観が可能となっている。外国人の場合はパスポート携帯が義務付けられているが、問題なく見学はできる。入口は正面玄関ではなく、天津街にある通用門にあり、荷物検査を経た後、ガイドとともに順路に従って参観する。

この建物は1959年から行政院が使用しており、現役の行政庁舎である。しかし、台湾では歴史建築に対する保護が熱心に行なわれており、同時に、こういった老建築を郷土探究の教材として扱い、広めていくことが模索されている。この場合、国家が管理する「国定古蹟」となっている。

建物としては竣工年代の関係もあり、建築美というよりは機能美が優先されている印象だが、見どころは少なくない。

たとえば、通用門には靴の洗い場が残されている。これは馬車が使われていた時代によく見られたもので、靴に付いた泥を落とすための洗い場だ。また、庁舎内の窓にも注目したい。これは滑車を用いて上下し、いわゆるフリーストップ式となっている。

さらに、この建物は旧台湾総督府庁舎などと同様、上から眺めると、「日」の字型をしている。四周に事務室を配し、中央には大講堂が設けられている。この講堂はかつての台北市議会議事堂である。講堂からは両脇に中庭の緑が眺められ、優雅な雰囲気となっている。

最後にこの建物の正面玄関の門扉に注目してみよう。大きくて厚い門扉だが、そこには原住民族の彫刻をモチーフにしたデザインが施されている。幾何学的な模様にも見えるが、これはパイワン族の人々が手がけた彫刻を題材としている。



入口の泥落とし。官庁建築の入口には靴の泥を落とすための水道が設けられていた。この場合、現在は使用されていないものの、その痕跡が確認できる。



フリーストップ式の窓。機能的が重視され、装飾などは見られないが、階段や窓枠などに注目してみると、凝った作りであることが理解できる。



玄関ホールには台湾産の大理石が用いられている。門扉にかたどられた高砂族の彫刻デザインにも注目したい。

また、このホールの壁や床には台湾産の大理石がふんだんに用いられている。昭和時代を迎え、「台湾らしさ」というものが建築物に盛り込まれるようになっていたのである。これを「時代性」と捉えられるなら、この建物への興味はより高まってくるに違いない。

## 立法院—旧台北州立台北第二高等女学校

監察院から中山南路を南に進んでみよう。青島東路を挟んで対峙するのは中華民国立法院の庁舎である。立法院とは日本の国会に相当する機関で、その庁舎はかつての女学校校舎である。終戦までの名は台北第二高等女学校。現在も往時の面影を感じさせている。

公立の高等女学校は台北市内には第一、第二、第三と三校が存在した（このほかに私立の女学校がある）。そのうち、第一と第二は日本人（当時は「内地人」を名乗っていた）子女のために設けられた学校で、第三は台湾人（同「本島人」）子女の入学枠がある程度確保されていた。そして、この第二高等女学校も生徒の9割近くが内地人であった。つまり、台湾人の入学は非常に難しかった。前回紹介した第一高等女学校と同様、植民地統治下における教育機会の差別が明確になった空間である。

終戦を迎えると、こうした状況は災いとなった。日本が台湾の領有権を放棄すると、その後の管理が蒋介石率いる中華民国政府に委ねられた。その際、国民党政府は台湾総督府が有していた資産を接収し、台湾社会に還元されることはなかった。そして、日本人は台湾に残ることを許されず、引き揚げという形で台湾を離れることになる。

その際、生徒の大半を内地人が占めていた第一、第二高等女学校は存続そのものが危ういものになってしまう。結局、新たに台湾へやってきた外省人子女のために、第一はエリート養成機関として残ったが、第二は廃校処分を受けてしまう。戦



正面玄関。現在は立法院として使用されている。戦時中の爆撃を受けたため、戦後におおがかりな修復が行なわれている。



青島東路に面した校舎は1936年に造営されたものである。モダニズムの流れをくむ建物である。

時中の爆撃による被害も大きく、結局、学校そのものの存在が消滅させられてしまった。

## 現在も使用されている校舎

台北市第二高等女学校の校舎は今も残されており、中華民国立法院の庁舎として使用されている。戦災を受け、戦後に大がかりな改修と改造を受けているが、なんとかその姿を留めている。

正面玄関は中山南路に面しているが、ここは改修工事を経て大きく変わっている。しかし、校舎そのものは昔のままで、赤煉瓦の落ちついた色合いが印象的だ。その上方を見ると、日本式の黒瓦屋根を抱いている。少々見慣れないスタイルだが、その組み合わせは新鮮だ。

こういった赤煉瓦造りの建物に日本式の黒瓦を抱く建物は台湾では散見できる。台北市内では国立台湾大学の敷地内にある高等農林学校校舎（現行政大樓）などがあり、郊外では新竹州庁舎（現新竹市政府）などがある。

館内入ると、手入れの行き届いた植え込みと中庭が前方に見える。かつての校舎は「U」字型をしており、三方から中庭を取り囲んでいた。この中庭の奥にかつてはグラウンドがあった。両者とも、戦後は駐車場になっていたが、往時の様子を想像することはできる。

開学当初、校舎は「L」字型をしていたが、1936（昭和11）年に北面に新校舎が増築されている。この部分は3階建てであり、屋根も黒瓦葺きではない。色合いも現在は統一感のある赤煉瓦風の色合いだが、当時は黄土色だったという。

敷地内を歩いていると、学校らしい雰囲気強く感じられる。廊下は中庭に沿って設けられ、水飲み場なども残っている。各教室はそれぞれ事務室や議員秘書室などに変わっているが、窓枠や扉などの細部を見ていると、ここはやはり学校だったということを思い知らされる。

現在、この建物は古蹟に指定されることはなく、保存対象にもなっていない。これは戦時中の爆撃で倒壊した部分が多く、その価値が認められないというのが理由だが、確かに1945年に米軍によって空撮された爆撃後の状況を見ると、旧校舎などは屋根がほとんど吹き飛ばされており、壁だけがかりうじて残っている状態である。

また、立法院という性格上、建物内部の参観は認められていない。内部の様子を目にできる機会は非常に限られているというのが現実だ。しかし、今も時折、日本から卒業生が訪れることがあるという。卒業生たちは「撫子会」という組織を作り、活動している。

私がここを取材した際、担当者は「そういった先輩たちが訪れた時には、できるかぎり見学を受

け入れたい」と語っていた。そういった台湾人の優しさと思いやりに涙を流す人々は少なくない。

#### 台北第二高等女学校校歌

(作詞：星合愛人、作曲：小出信) ※撫子会提供

1

稲の穂波に 風そよぎ  
こがね玉ちる 蓬萊の  
島の都に かがやける  
わが学び舎ぞ うつくしき

2

若葉青葉の 色かへぬ  
木木のみどりは わが操  
をとめ心の きよらかに  
そめて織りなせ あや錦

3

學と徳とを つみあげて  
聳ゆる峰の 大屯は  
なせば成るとの いましめを  
つよくもさとす 姿かな

4

流れてやまぬ 淡水の  
はてなき海に そそぐごと  
ときに先立つ 学園の  
理想の海に こぎ出でむ

### 美しさを誇る教会建築 —台湾基督長老教会濟南教會

台湾基督長老教会濟南教會と呼ばれる教会がある。これはかつての日本基督教団台北幸(さいわい)町教会で、戦前から宗教建築の白眉とされていた。言うまでもなく、台湾を代表する教会建築としても名を馳せていた。

日本に比べると、台湾にはキリスト教信者が多い。町歩きをしても、教会を見かけることは珍しくない。しかし、そういった中で、戦前から続いている教会を探してみると、その数は多くは



赤煉瓦造りの美しい教会建築である。国家イベントがある際には夜間のライトアップも施されて美しさを増す。

ない。なお、台湾では「基督教」はプロテスタント(新教)を意味し、カトリック(旧教)の「天主教」とは明確に使い分けられている。

この教会の竣工は1916(大正5)年だった。設計を担当したのは、この時代、台北市内で数多くの建築物を手がけた台湾総督府技師の井手薫。1911(明治44)年に先述の森山松之助からの依頼を受け、井手は台湾にやってきた。その後、約一年の欧米出張を経て1923(大正12)年に民政部土木局営繕課長となる。さらに1929(昭和4)年には総督官房営繕課長となり、台湾建築学会の会長にもなっている。

井手は台北の都市計画や史料編纂にも深く関わっており、台湾の歴史を探究する上では欠かせない人物である。彼が手がけた建築物は、この教会のほか、台北高等学校講堂(現国立台湾師範大學禮堂)、台湾総督府高等法院(現司法大厦)、台北公会堂(現中山堂)、台北市役所(現行政院)などがある。特に終戦までの昭和期の大型建築にはほぼ関わりを持っている。

### 赤煉瓦と「唹哩岸石」が用いられた

この教会は教堂部と鐘樓部が組み合わさったスタイルとなっている。教堂については壮麗さを際立たせたゴシック調のデザインである。それでも、上部に据え付けられた十字架は思いのほか小

ぶりで、そのためか、教会らしさという雰囲気は強くない。

また、鐘楼が教堂に並列しているスタイルも当時は例が少なく、珍しいものとされていた。館内もすっきりとした印象をまとっているが、こちらは教会特有の壮麗さをしっかりと兼ね備えているように思える。

建物外壁は南国の日差しに照らされた赤煉瓦が独特な色合いとなっている。そして、玄関には台北北郊の唭哩岸（きりがん）という土地で採掘された石塊が用いられている。この教会に限らず、この「唭哩岸石」と呼ばれる石材は大正期までの台湾の建築物では幅広く使用されている。

余談となるが、唭哩岸という地名にまつわる歴史秘話も紹介したい。昭和13年に刊行された『台湾地名研究』（安倍明義）によれば、唭哩岸はかつて台北盆地に暮らしていたケタガラン族の人々が用いていた地名だという。しかし、その歴史をたどると、スペイン人が淡水一帯に拠点を構えていた頃に生まれている。

当時、スペイン人たちは淡水から川を上がって台北（当時の中心は萬華一帯）を目指したが、このあたりの地形が船隊が拠点としていたフィリピンのイリガン（ミンダナオ島北部の港湾都市）に似ており、これにケタガラン語の地名の接頭語である「キ」が付いて「キリガン」になったと安倍は述べている。

なお、この教会に集まってくる信者は病院関係者が多かったと言われている。そして、この建物の後方一帯は日本人官吏の住む住宅街であった。終戦までは幸町と呼ばれ、今も木造家屋が何棟か残っている。

こういった家屋に住んでいた人々は終戦後、すべて日本へ引き揚げているが、現在もなお、細い路地を歩いていると、木造の日本家屋が残ったりして独特な雰囲気となっている。



館内の様子。日本統治時代は内地人（本土出身者とその家族）の信者が多かった。戦後の一時期、外省人信者と本省人信者の対立が見られたこともあった。

## 台湾医学界を牽引した教育機関

台湾基督長老教会済南教會からさらに南に進んでいく。現在教育部（日本の文部科学省に相当）のある場所は、日本統治時代に台湾総督府中央研究所のあった場所である。産業開発から衛生管理、地理・歴史、民俗学に至るまで、幅広い研究を行っていた。

1939年には改組を経て、ここは工業研究所と熱帯医学研究所となった。ルネサンス風の瀟洒な建物で知られていたが、残念ながら、戦時中に米軍機の爆撃を受けて全壊。建て直されることはなく、戦後に現在の建物が建てられ、教育部が使用するようになった。

その南には広大な敷地を誇る国立台湾大学附設醫院がある。日本統治時代の台湾総督府台北医院は中山南路を挟んだ向かいに位置している。これは現在、国立台湾大学医院旧館となっている。

そして、さらに南にあるのが、旧台北帝国大学医学部・医学専門部である。ここは現在、「台大醫學院舊館」という名で呼ばれており、台北市が指

定する古蹟となっている。

訪れてみると、クリーム色の優しい色合いの壁面が南国の日差しに照らされている。建物は一部だけが残る状態になっており、中山南路を南下していくと、建物を裏側から見るような形となるが、敷地全体はしっかりと管理されている。

こちらの面はかつて講堂だった場所である。1985年に講堂の大部分と教室の部分が取り壊されてしまい、ステージの部分だけが外壁のような形になって見える。正直なところ、少々おかしい格好なのだが、天気恵まれれば、植えられた芝生に映えて美しい。

正面玄関は仁愛路に面している。入口には石組みの門柱が残されており、歴史を感じさせている。この建物はもともと、台湾総督府医学校の校舎として建てられたものである。熱帯病理学の権威として君臨した同校のシンボルだった。その後、1919(大正8)年に医事専門学校となり、1928(昭和3)年に台北帝国大学医学部に編入されている。通称としては、今も「医学校」と呼んでいる古老も少なくない。

竣工以来、台湾医学界の発展に貢献してきた建築物である。どっしりとした構えは風格を漂わせているが、周囲には亜熱帯の緑が生い茂り、老建築もその中にとけ込んでいるように見える。

## 校友会館として親しまれる老建築

仁愛路の側に立ってこの建物を眺めると、優雅な雰囲気ではあるが、戦時中に激しく被弾したという屋根などは修復されており、元のままの姿とは言えない。

現存するこの建物はかつて2号館と呼ばれたものである。設計には西門紅楼や台湾総督府医院の設計者である近藤十郎(じゅうろう)のほか、小野木孝治(たかはる)らが携わっている。

すでに90年以上の歳月を経ていることもあり、木造部分を中心に傷みは激しかったという。しか

し、1995年1月には卒業生から寄付が寄せられ、同年8月から修復工事が始まった。1998年2月21日に工事は終わり、盛大な式典が催された。そして、歴史建築保存の機運が高まる中、1998年3月25日に台北市から古蹟の指定を受けた。

現在は校友会館という名目で、学生や卒業生たちが集う公共スペースとなっている。2009年には醫學人文博物館の名も与えられ、館内には台湾医学界の歩みを紹介する展示や講演スペースなどが設けられている。

さらに、台湾医学界に功績を残した人物の胸像も展示されている。まずは初代校長の山口秀高(ひでたか)、第3代校長の堀内次男(つぎお)、台湾総督府医院長を務めた高木友枝(ともえ)のほ



1世紀近い歴史を誇るこの建物は、台湾医学界のシンボルとして君臨してきた。



仁愛路に面した正面の様子。現存するのはこの2号館のみとなっている。

か、台湾初の医学博士である杜聡明（とそうめい）の像があり、そのほかにも、第3代医学部長を務めた森於菟（もりおと）の展示もある。

この森は文豪森鷗外の実子で、医学部の教授を長く務めた。なお、山口秀高と高木友枝の像は大理石を用いた石像で、彫刻家北村四海（しかい）の手による。北村は石彫の彫刻家として知られていた。

ここには、カフェなども併設されているので、町歩き途中に立ち寄ってみるのもいいかもしれない。



高木友枝と堀内次男の像。戦後、長らく日の目を見ることがなかったが、現在は広く展示されている。



壮麗さを極めた老建築は今もなお、強烈な存在感を示している。現在は内部も自由に参観できる。



石組みの門柱も健在だ。日本統治下、台湾の学校の門柱はどこともしっかりとした造りであった。

片倉佳史（かたくら よしふみ）

1969年生まれ。早稲田大学教育学部卒業。台湾に残る日本統治時代の遺構を探し歩き、記録している。これまでに手がけた旅行ガイドブックは30冊を数える。そのほか、地理・歴史、原住民族の風俗・文化、グルメなどのジャンルで執筆と撮影を続けており、台湾の社会事情や旅行情報などをテーマに講演活動も行なっている。著書に『台湾 鉄道の旅』（JTBキャンブックス）、『台湾に生きている日本』（祥伝社）、『観光コースでない台湾』（高文研）『台湾に残る日本鉄道遺産』（交通新聞社新書）など。台湾でも『台湾風景印-台湾・駅スタンプと風景印の旅』（玉山社）などの著作がある。

ウェブサイト台湾特捜百貨店 <http://katakura.net/>

## 交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成23年12月8日から12月17日まで台湾で東アジア地域の国際政治・国際法・国際経済・安全保障に関する研究を行っている台湾人大学院生20名を現代日本社会や文化に対する理解を一層深めるために東京都・群馬県・愛知県・京都府に招聘しました。

東京では日華議員懇談会や防衛省研究所等の公的機関を訪問しての意見交換、群馬県では日本人家庭でのホームステイや温泉体験、名古屋大学及び立命館大学では各自の研究論文を発表し討論する学術交流会を行い、文化体験では座禅、着物の着付け等を体験し短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ学術や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した20名のうち、男性2名女性4名の訪日報告書を2回に分けてご紹介致します。

### 平成23年度台湾大学院生訪日団 感想

台湾大学 政治研究所  
劉庭豪



交流協会の台湾大学院生訪日団のメンバーになることができたことをとても嬉しく思います。年の瀬に日本を訪れることができ、大変光栄です。今回の交流では多くの収穫や心に残ったことがあり、皆に伝えたい感想もあります。以下では日程順に述べたいと思います。

#### 時空を超えて江戸時代へ—江戸東京博物館

私はずっと歴史に興味を持っており、中国の歴史であれ、外国の歴史であれ、知りたいという好奇心を持っています。今回、江戸東京博物館を見学することができ、とても興奮しました。博物館は江戸時代の歴史及び文化に関する資料を保存し、展示しています。その中でも最も印象深かったのは、江戸時代の火を起こす道具です。以前、日本のテレビドラマ「JIN—仁—」を見たときに、

ドラマの中で火を起こす道具が出てきましたが、博物館に展示されていたものと全く同じでした。その展示を目にしたときは、思わず足を止めて、火を起こす道具の紹介を読みました。博物館の見学で少し残念だったのは、館内の展示品はとても豊富であるにもかかわらず、時間が短すぎてあまり多くの展示品を見ることができなかったことです。もし今後また東京に来る機会があれば、時間をかけて館内をじっくり見学してみたいと思います。

#### がんばれ台日交流—日華議員懇談会

日本に来て日本の議員と対談を行うことができたのは非常に得難い機会でした。特に対談の相手が我が国に友好的な議員だったので、とりわけ親しみを感じました。実のところ、日本へ来る前まで、日華議員懇談会という組織のことは知りませんでした。今回の日程のお蔭で、台日間にこのような友好的な団体が存在していることを知ることができました。台日双方には正式な外交関係は存在しませんが、両国の間の政治経済関係は密接であり、お互いの国民の行き来も頻繁です。政府間の正式な関係は存在していないものの、事実上の

付き合いは消し去ることはできません。日華議員懇談会の議員は中国本土の将来の発展に対して疑問を抱いていることが分かりました。日本と同じように、多くの台湾人も兩岸関係の発展に非常に注目しています。なぜなら、兩岸関係は台湾の発展と将来の行方に係わることだからです。中国本土の総合的な国力が次第に強まるにつれて、中国本土とどのように付き合っていくかは台日双方が共に直面する課題となっています。

### 非常に心温まる群馬での滞在一ホームステイ

ホームステイの体験は今回の訪日旅行で最も印象に残り、最も忘れがたい時間となりました。今でもホストファミリーのもてなしに感謝し、彼らに会いたいと強く思います。日本に来る前に最も心配していたのはホームステイの日程でした。自分の日本語能力ではホストファミリーと意思疎通できないのではないかと、両国の文化の違いによってお互いの間にわだかまりや誤解が生じるのではないかと心配していました。ところが、これらの心配はすべて余計なものでした。T 夫妻はとても親切で、可愛らしく、夕飯の時は、お母さんが手作りの料理をたくさん用意してくれ、食べると感動と感謝の気持ちで一杯になりました。T 家のお母さんの料理の腕は本当に素晴らしく、他の訪日団のメンバーに私のホームステイ先の豪華な夕食の写真を見せびらかしました。言葉の壁はありましたが、私達の話は、台湾人の東日本大震災への募金、日本のテレビドラマ「南極大陸」「家政婦のミタ」及び日本のアニメ「ワンピース」など多岐にわたりました。T 夫妻は自分たちが台湾に行った時の経験を私達に話してくれました。

その日の夜はちょうど皆既月食だったので、寒い中、T 家のお母さん、娘さんと一緒に夜空の月を見ました。このときの感動はいつまでも胸の中に残り続けました。これまで台湾で日本のドラマやアニメを見て、日本の家の造りや内装を見てい



ホストファミリーと別れる直前に撮った写真。笑って写っているけれど、次回いつ会うことができるのかわからないので、少し辛かったです。

ましたが、今回、日本の家庭にホームステイする機会ができ、遂に夢を叶えることができました。特にホットカーペットや日本の伝統的な炬燵を見たときは、テレビで見た場面がそのまま目の前に現れたかのようでした。とても寒い天気でしたが、T 家のもてなしがとても温かく感じました。

### 平和という究極の真理に向かって—国際平和ミュージアム

今回の訪問日程の中で、最も有意義だと感じたのは国際平和ミュージアムです。国際平和ミュージアムを見学し、回顧するに堪えない戦争の悲惨な記憶を目にしました。軍国主義の歴史的一幕や1発の弾丸が人々の平穏な生活を壊したことなど、歴史の断片が国際平和ミュージアムに忠実に再現されていました。どの展示も驚くべき内容で、心の琴線に触れました。戦争の残忍さは経験したことはありませんが、とても深く印象に残りました。これは人々に歴史を忘れてはならないことを伝える博物館であり、将来は平和の道を歩まなければならないことを伝える博物館です。国際平和ミュージアムの中には、第二次世界大戦の歴史に関して、各国の教科書を展示しているコーナーがありました。その中には台湾の教科書も含まれており、多角的な歴史観により第二次世界大

戦発生の原因を示し、多角的な精神を示しています。もし現在の国際情勢も異なる国家の声を受け入れながら学び、異なるものを受け入れることができれば、国際平和ミュージアムの刊行物に記載されていた「見て、感じて、考えて、平和を目指す」を真に実現することができると思います。国際平和ミュージアムは世界中のすべての人にとって見学するのに適した博物館であり、見学後は戦争の残酷さと平和の尊さを感じることができると思います。

### 学術交流の尊さ—立命館大学

今回の訪日団の活動の山場がついにやって来ました。海外でレポートを発表するのは非常に得難い経験であり、外国人学生と自分の学術上の成果を討論するのは貴重な経験です。私のレポートのテーマは「中国の軍事の現代化、日本の東アジアにおける戦略配置への影響」です。パワーポイントでの発表を終えると、このテーマは日本がここ数年または将来直面する課題なので、多くの日本人学生が私に質問しました。レポートの価値というのは、皆の討論の対象となったり、重要視されたりするにかかっているのです。立命館大学の学生が私のレポートに対して興味を示してくれたことは、とても嬉しかったです。また、東京から新幹線に乗って遠路はるばる京都へ私達の発表を聞きに来てくださったI先生にはとても感謝致します。I先生は各発表者に対して役立つ意見をたくさん与えてくださっただけでなく、それぞれの発表を注意深く聞いていました。このような先輩の姿から、私は日本人の勤勉な精神を目にし、とても敬服しました。

### 日本文化初体験—両足院での座禅体験、和服を着ての清水寺散策

建仁寺両足院での座禅と和服を着ての清水寺散策はとても新鮮な経験でした。今回の訪日団の活

動でこれらを体験することができ、本当に嬉しく思います。寒い天気の日に座禅を行いました。日頃台北で生活しているときは、片時も落ち着く暇がありませんが、俗世間から離れて、座禅を組むことに専念するという座禅に日本で挑戦することができ、とても気持ち良く感じました。台湾に戻った後も、師匠が教えてくださった座禅の組み方を思い出しながら、自分でも心身をリラックスさせる方法を身に付けたいと思います。

座禅の後、有名な清水寺を訪れました。台湾にいた頃から、その独特な建築工法や決意を示すために清水の舞台から飛び降りることなど、清水寺のことは聞いたことがありました。実際にこの目で清水寺を見て、和服も体験することができたことは、2つの夢を同時に叶えることができたとても貴重な経験でした。

今回の訪日団の活動を円満に終えることがで



き、交流協会の担当者の方々、引率して下さった団長のK先生、Aさん、Nさん、通訳のT<sub>1</sub>さん、群馬県観光国際協会のS部長、ガイドさん、メンバー全員、及び日本で私達を助け、協力して下さったすべての方々に感謝致します。みなさんのお蔭で、今回の旅行が素晴らしいものになりました。訪日団の活動の中には、居酒屋、座禅、和服、ホームステイなど、初めて体験することがたくさんありました。どれもとても目新しく、ずっと日本にいたいと思いました。日本語の能力をもう少し強化しなければならないのはもちろんですが、私は笑顔こそが最も良い言葉であると信じています。真心がこもった笑顔は互いの距離を縮めてくれます。今回の交流が台日民間関係をより緊密、密接にし、二国間関係がより深く発展することを願っています。

私は今年4月の日本行きチケットをすでに予約しました。再び日本に行けることを楽しみにしています。

## 台湾大学院生訪日団 訪日感想

台湾大学 政治研究所  
李雅築



多くの台湾人にとって日本は隣に住んでいる隣人のようであり、生活の中にも多過ぎるほどの共通点や交わりがあり、既に良く知っている国のようです。しかし、まだ日本を訪れたことが無いのであれば、このような言い方は早過ぎるかもしれません。私は今回の旅行で多くの「初体験」を経験しました。日本の精神と文化の魅力を再認識しただけでなく、台湾と日本が密接に結びついている原因を改めて考え、そして最も重要なこととして、両国の交流における自己の役割を改めて見つめ直しました。

## 最も印象深かったもの：日本の生活体験@群馬県

ホストファミリーは、お母さん、お姉さん、弟の3人からなる小さな家庭でした。お母さんは中国の成語や唐詩を暗誦することが好きで、私達と一緒に日本語版の唐詩を沢山朗読し、とても面白かったです。お姉さんは台湾のアイドルグループ「飛輪海（フェイルンハイ）」のCDを沢山集めていて、台湾のソフトパワーの力を見ただけではなく、国際化のイメージがより豊か、かつ具体的になりました。弟は私達の日本語がうまくないことを知って、できるだけ話すスピードを遅くしたり、簡単な日本語を使ったりしてコミュニケーションを取ろうとしてくれました。身振り手振りを交えて話す彼の姿を見て、とても感動しました。彼は夜、リビングの炬燵に大人しく座って、手に持ったビーズと糸を慎重に操り、小さなペンギンの手芸品を完成させました。「これあげる」とそれを私たちにくれるなんて、その心遣いにとっても驚きました。小さな手芸品ですが、無限の心遣いと温かさが込められていました。

送別会で、私と朱美兪は随行の通訳に私達の架け橋役をお願いすると、言いたかったことが心の中から無意識に湧いて出てきました。「美味しい食べ物を沢山作ってくれて、お母さん、ありがとう。とても仲睦まじくて心温まる家庭で、私も沢山の温もりをもらいました」「お姉さんは、お母さんの手伝いをよくするだけでなく、面白いことも沢山してくれて、本当に可愛かった」「弟は多芸多才の小さな天才です。カメラや手芸ができるだけでなく、手品などで私たちを楽しませてくれました」話し終わったとき、全員が思わず涙を流しました。



(図1) お姉さんと弟。弟が手に持っているのは手作りの手芸品



(図2) 送別会にて。左からお姉さん、お母さん、弟、私、朱美俞

このような国境と言葉を超えた交流は言葉で形容するのが難しいです。笑顔と強い心の繋がりにより、私たちは短い時間でも急速にお互いを理解し、親密になりました。何年何月に再会することができるか分かりませんが、機会があればまたこの可愛い小さな家庭を訪れ、日本の家庭生活のより多くの面を体験したいと思います。

#### 最も頭を使ったもの：レポート発表と日本人学生との交流

レポート発表は今回の訪日研修の最も重要なイベントでしたが、正直なところ、私は自分の発表があまり良くできなかったと思いました。後で団長の郭先生からメンバーの中では中レベル以上の発表だったとの評価を頂きましたが、やはりあまり自信が持てません。発表を終えた後は、ただもっと学術の中身と背景知識を充実させなければならぬと感じました。なぜなら私たちが接した日本の学生はほとんどが学びと遊びの能力を共に兼ね備えた大学院生で、流暢な英語と多様な視点から豊富な内容のレポート発表を行っていたからです。彼らの中には自己の見解を教授にぶつけて討論した学生や研究の枠組みや方法を自ら生み出した学生もいました。K先生は私達を励まして仰いました。「大学院生はこうでなければなりま

せん。学術の世界では、正しい意見や間違った意見というものではなく、あなたの意見と私の意見があるだけです。だから教授と討論することを恐れてはいけません。」その他、人の言ったことを鵜呑みにして他人の方法を用いるのではなく、自分の研究方法を持ち、独自の方法を作り出すことを試してこそ、研究目的と趣旨に合致する、ということをおっしゃいました。

#### 最も見る価値のあったもの：江戸東京博物館及び立命館大学国際平和ミュージアム

江戸東京博物館は日本の江戸幕府時代の生活の様子を再現し、一連の音声ガイドが見学者をあたかも歴史の場面の中にいるかのような気分させてくれ、実際の人による解説は当時の日本社会の様子をより豊かに再現してくれます。

国際平和ミュージアムには日本の第二次世界大戦時における歴史的写真や文物が詳細に展示され、平和への願いを伝えるために、加害者と被害者の両面から戦争の真の姿を再現しています。このような心揺さぶる保存された文物に私はとても驚かされたと同時に、日本国憲法第9条が生まれた背景や歴史的経緯が徐々に見えてきました。国家にとって戦争は、国家の財産を無駄にし、多くの罪の無い人の命を傷付けるだけです。日本は第二次世界大戦の中から国家の存在意義を考え、日本の軍隊の組織改編を行いました。これはとても得難く尊い反省です。国際平和ミュージアムが伝えようとしている理念は、多くの団体の見学や見学者への解説を通じて、次第に多くの人が戦争の恐ろしさと脅威を理解し、人々の心の奥深くに平和の考えを根付かせ、より多くのまとまった声と認識を生み出しています。

#### 最も興奮させられたもの：日華議員懇談会訪問

正直なところ、これまで日華議員懇談会の存在を知りませんでした。この組織は親台派の政治家たち共同の場を提供するだけでなく、台日関係に



(図3) 立命館大学「日台大学院生 学術発表会」



(図5) 浴衣を着て群馬県観光国際協会のSさんと記念撮影



(図4) 江戸東京博物館

政府の拠り所と後ろ盾を提供しています。日華懇の議員は台日間の相互交流に関心を持ち、両国間の懸け橋としての役割を演じ、真の外交関係がない両国において一定の理解と相互信頼を確立させています。日華懇の議員は、はばかりずに言いました。「中国は依然として日本にとって最大の脅威の一つであり、釣魚台（尖閣諸島）[G 1]の主権問題や最近発生した沖縄事件など、中国の強大な軍事力の矛先は日本に向けられている。台湾は特殊な地位において、いかに力を発揮し、運営していくことで重要な役割を演じることができるかは、台湾政府が考え、努力すべき点である」

最も忘れがたいもの：達磨への願い、金閣寺、和服で歩いた清水寺

達磨絵付けの先生は熟練した手つきで、それぞ

れの達磨に縁起の良い鶴や亀を描いていきました。すでに何度もやっている動作ですが、「これはお客さんが幸せを祈るために使うものだから、一つひとつ誠心誠意を込めて描いています」という先生の粘り強く専心する姿には感心させられました。また、和服を着て散策した清水寺は特別な体験でした。手足を伸ばしたり、思い切り息を吸ったりすることができない和服を着たことで動作が自ずと品のある女性のようになり、とても面白かったです。



(図6) 清水寺の前で。左から濬帆、芷羽、私、軍凱、庭豪、鼎伊

最も心に残ったもの：日本人の礼儀正しさと細やかな心遣い

ずっと心に残っているのは、ホテルの老女将の満面の笑顔、腰を曲げて注いでくださったお茶、腰を90度に曲げてのお辞儀やお礼です。「多くの温泉旅館の中から私どもの旅館を選んで頂き、ありがとうございます。心より感謝申し上げます」。たとえ多くの観光客を接客したことがあっても、彼らは毎回のサービスを最後の1度のサービスと

同じように考え、私たちが必要としていることや細かなことなども注意深く観察し、私たちよりも一歩早く準備してくださいました。このようなサービス精神と意志は日本を訪れた観光客全員を我が家に帰ったような気分させてくれるものです。

### あとがき

日本では「台湾、ありがとう」という言葉をよく耳にしました。日本の大震災における募金や協力は台日両国の友情を際立たせ、民間にせよ政府にせよ、両国が既に良好な相互関係を築いたことを否定することはできません。

この9泊10日はゆっくり時間をかけて考える必要のある訪日研修でした。K先生がおっしゃったように、今回の訪日研修は「大成功」でした。私たちは酸いも甘いも経験し、そのような味わいは私の心に留めておくだけでなく、私の日本に対するあこがれや考えを外に伝え、自分が日台交流の種となり、台湾と日本の関係をより近づける民間の外交官になりたいと思います。

## 平成23年度台湾大学院生訪日団 感想レポート

淡江大学 アジア研究所日本研究組

陳怡君



最初に、今回の機会を与えてくださった交流協会に感謝致します。初めての海外での発表だったので、外国語と研究を引き続き強化しなければならないことを感じました。一方で、それぞれの研究分野は異なっているものの、台湾の他の学生の発表から沢山の日本の新しい顔を見ることができ、また日本の学生の発表からも異なる国の見方、

研究内容やその方向性の違いを発見することができました。

### 1. 東京

1日目、日本に着くと、まずお台場へ行き、意外にもクリスマスの特別なイベントを鑑賞することができました。初日の夜は、交流協会によるもてなしを受け、日本の居酒屋の雰囲気を経験しました。

東京日程の2日目は、まず日本憲政記念館を見学し、午後は日華議員懇談会及び防衛研究所の座談会に参加しました。日華議員懇談会において、みんなが最も関心を示していた問題は、日本が各種の貿易組織へ加入することの影響及び見方であり、特に最近のTPPの議論は日本国内で大きな論争を巻き起こしています。懇親会に出席した議員の大半は反対意見を持っていました。出席した議員はみな、TPP締結の国内産業に与える衝撃は甚大で、自由貿易だけを理由として締結するならば、経済全体への影響は避けられないため、慎重に行動しなければならない、と考えていました。

防衛省防衛研究所では、東アジア全体、東南アジアないしはロシアとの関係について、皆から質問や意見が出され、研究員は私達ととても細かく討論し、国際関係を研究する上でとても役に立ちました。

もう一つの座談会は研究開発戦略センターでした。研究員の講義を聞いて、多くの研究者が地震の被災地で震災後に便利簡単かつ被災地のニーズを満たすことができる製品を研究開発していることが分かりました。また日本の周辺地域における経済貿易についても説明があり、このテーマを研究している学生は次々と意見を述べました。私はこのテーマについて研究していませんが、みんなの熱意を感じるすることができました。

## 2. 群馬

日程の中でホームステイの活動は、私にとってとても新鮮かつ特別なものでした。24時間に満たない短いものでしたが、皆と別れるときや自分のホストファミリーと別れるときの様子から、皆がホストファミリーとの間に深い感情を育んだことが見て取れました。

私のホストファミリーはYさんの家庭で、3人の3歳以下の子供を含む家族8人の大家族でした。ホストファミリーのお婿さんであるGさんは、私達を高崎白衣大観音に連れて行ってくれました。白衣大観音の展望台からは東京まで見渡すことができ、眺めは非常に壮観です。Gさんの長男・睦久くん、次男の拓久くんも一緒に同行し、私達はすぐに仲良くなりました。ホストファミリーは特別なところへ連れて行ってくれたわけはありませんが、彼らが普段買い物に行く場所、食事を食べる場所に一緒に行くだけでもとても面白かったです。夜はお母さんのYさんと娘のめぐみさんと一緒にお喋りし、2人は台湾に是非一度行ってみたいと話しました。各国の学生を受け入れたときの面白かった出来事などの話を聞くことができ、とても有意義な夜を過ごしました。

群馬では富岡製糸場見学、達磨絵付け体験、榛名湖イルミネーション見学をし、最後は伊香保温泉旅館に宿泊しました。

富岡製糸場の歴史的価値は、日本の工業化時代の始まりを象徴していることにあります。十分な見学時間がなく、内部の建築物まで見学することはできませんでしたが、当時のシステム化された織布機械を見たり、当時の逸話をガイドから聞いたりし、このような産業が現地に発展をもたらしたのには、とても長期にわたる営業と推進があったのだと思いました。

達磨絵付けはとても面白い体験でした。社長がお手本を示し、みんなは自分の達磨を描くのに集中しました。達磨の機能は幸運を祈願するものであるから、一つひとつの達磨は誠意をこめて描かなければならないという社長の言葉からは職人の気概が感じられました。

今回、榛名湖イルミネーションの時期に訪れることができ、非常に幸運でした。とても寒い天気でしたが、このような珍しい景色を見ることができ、とても嬉しく思います。この場所の昼間の景色も夜の景色とは違った良さがあるのだろうと思いました。

夜宿泊したのは「轟」という温泉旅館で、歴史の古さが感じられました。女主人と他のスタッフのサービスが非常に忘れがたい夕食にさせてくれました。他の温泉地と比べ、伊香保温泉は台湾ではあまり注目されていません。私は伊香保温泉もとても特色のある温泉だと思いました。温泉好き





の友人に是非紹介したいと思います。夜は群馬県観光国際協会のS部長が温泉街を案内してくれました。夜はすでに店が閉まっていたましたが、有名な石段を旅館から一番上の伊香保神社まで上りました。石段はどこか懐かしい感じがあり、次回もし機会があれば、昼間にこの場所を訪れたいと思います。

### 3. 名古屋

名古屋での滞在時間はそれほど長くありませんでした。私は名古屋大学で発表することになっていたの、朝の日程もずっと緊張していました。発表のときは大きな間違いはなかったものの、言葉の問題があり完璧に発表することができず、今後もう少し努力しなければならないと思いました。発表後、私の興味ある研究テーマを発表した日本の学生と交流、意見交換を行いました。これまで関連文献を読んで研究し、国家人権委員会の推進や反対についての日本の状況は知っていましたが、実際に研究している日本人と話しをし、彼らの考えを一層深く理解することができました。今後も連絡を取り続けていけたらと思います。立命館大学での発表では、私は発表しませんでした

が、マレーシアの出稼ぎ労働者の問題を研究している博士課程の学生と台湾の政策及び状況、他の東南アジア地域の状況について討論し、多くの新しい見方を知りました。

### 4. 京都

立命館大学国際平和ミュージアムはとても有意義な場所でした。1980年代にヨーロッパ各国は第二次世界大戦への反省から、有名なスペインのゲルニカ平和博物館やドイツのベルリン・ユダヤ博物館など、数多くの戦争資料を保管していると聞いたことがあります。特にベルリン・ユダヤ博物館は第二次世界大戦時のあらゆる文献を保存すると共に公開しており、後世の学者の研究の用に供するだけでなく、一般市民も自由に閲覧することができます。

立命館大学の国際平和ミュージアムは戦争当時の日本の状況を記録しているだけでなく、戦争後期における加害者から被害者への転換、未来の人類が如何に平和を促進していくべきかについて豊富な内容を展示しています。

特に台湾人にとっては、第二次世界大戦中の日本と台湾の植民地関係により、日本の当時の行為についてより多方面からの観察を行うことができました。また、このような資料を公開して後世に評価・判断させることが、過ちを汲み取り前に進む方法であると思います。

台湾では二二八事件の発生から50年が経過した今日においても、台湾政府は依然として当時の多くのファイルを機密文献として非公開にしています。賠償問題や謝罪の他、当事者またはその家族が望んでいるのは「真実」を知ることです。ドイツの博物館の例では、当時の加害者に対して実施に処罰を行っているわけではないものの、主に当時の資料を公開することにより、歴史を思い出し、変えることができるのです。南アフリカの「真実和解委員会」も同様の理念に基づくものであり、

審議の目的は当時の「戦犯」を処罰することではなく、被告がすべての事実を裁判所で述べれば刑事責任を免れることもあります。

日本では現在もなお一部の戦後賠償の問題が継続していますが、過去の史料を博物館で一般大衆に見せることは台湾も検討すべきことだと思います。これも現在多くの団体が「移行期の正義 (Transitional Justice)」を引き続き推進している理由です。

京都は古い歴史と文化を持った古都で、ほとんどすべての有名な観光地は古い建築物で、いずれも歴史的意義に富んでいます。中でも金閣寺は必ず訪れなければならない観光地で、その日は日本の修学旅行生だけでなく、あちこちで外国からの観光客の姿を目にしました。通訳の徳山さんが私達に金閣寺の建物の特徴、歴史を説明してくれました。観光の時間は短かったものの、京都の文化の息吹を本当に感じる事ができました。

京都での自由行動では、私は市内の公共バスを交通手段として選びました。京都市は縦横に区画が分かれています、外国人にとって公共バスの路線図はとても親切かつ便利なものでした。特に公共バスでは一日乗車券が販売されていたので、一日に何度も市内の公共バスに乗ることができました。これは観光を促進する上で非常にプラスの影響をもたらすと思いました。

京都市の公共バスに対する私の第一印象は、停車位置が非常に正確であるということでした。京都の歩道の脇には観賞用の植物が植えられていますが、バスの乗客が乗り降りする空間も確保されていました。京都の公共バスの運転手が正確な位置に停車することができることは台湾とはまったく異なる点です。もちろん、台湾と日本の道路規格も異なっていますが、現在台湾で同じことをするのは難しいです。しかし、これは学ぶことができる点だと思います。

また、公共バスの中には耳の不自由な人のため



に筆談器が用意されていました。台湾も近年バリアフリーの空間作りを推し進めており、未だ十分に整備されていませんが、手足の不自由な障害者の自由な行動は以前よりも便利になっていますが、他の障害者に対するサービスは未だ細かい計画がなされていません。京都市内の公共バスはノンステップバスを使用している他、耳の不自由な人のために筆談器も備えており、台湾と比べると、身体の不自由な人に対してより広範なサービスを提供しています。前者の公共バス計画については、すぐに実現できないかもしれませんが、後者については、台湾もすぐに参考にすることができると思います。

京都の最後の一日は、座禅と和服を体験しました。座禅の時はとても寒かったですが、わずか15分間何も考えずに外の音に耳を澄ませていたら、心を落ち着かせる効果は抜群でした。精進料理もとても特色があり、私達が普段自分で日本に旅行に来たならば、考え付かない日程で、特別な感じがしました。清水寺での和服の体験は日程の中でも最も楽しみにしていた活動の一つです。みんな一緒に和服を着て、未だに紅葉が溢れる清水寺を散策し、特別な気分になりました。

大阪での時間は、厳密に言えばわずか45分しかなく、大阪人の生活を体験することはできませんでした。しかし、商店街は東京と比べ、店長が豪快で、商品も安かったです。最後に迷子になってしまった仲間がいて、緊張が走りましたが、結局何事もなく無事で良かったです。

最後の晩は関西空港に宿泊しました。夜、他の人と一緒に24時間動いている飛行場を見学したことはとても珍しい経験でした。

最後に、引率して下さったK先生に感謝の意を表したいと思います。ずっと私達の面倒を見てくださり、レポートや研究方法も熱心に指導して下さり、大変ためになりました。

全体の日程を手配し、私達の生活の面倒を見て下さったAさん、Nさんも私達の研究に大変関心を持って下さり、研究に役立つ活動であれば可能な限り許可していただき、とても感謝致します。また最も苦勞された通訳のT<sub>1</sub>さんは、私達のために通訳をすると同時にガイドの仕事もして下さり、私達は一層日本を理解することができました。その他、バスの運転手やバスガイド



さん、群馬県観光国際協会のS部長など、私達に多くの日本の文化を学ばせてくださいました。以上の方々のお蔭で、私達が訪問日程を円満に終えることができたことに感謝致します。

今回同じグループだった陳鼎伊さん、王軍凱さん、王藍輝さん、曾鈺君さんとは訪日期间中常に一緒に行動し、彼らからも色々なことを学び、楽しく過ごすことができました。みなさん、ありがとうございました。

# お知らせ

## 日台特許審査ハイウェイについて

<はじめに>

4月11日、当協会と亜東関係協会との間で日台特許審査ハイウェイに関する覚書に関し、大橋光夫・当協会会長と廖了以・亜東関係協会会長との間で署名が実施され、5月1日より、日台間で、特許審査ハイウェイ (PPH) の試行プログラムが開始されました。

台湾は日本にとって緊密な経済関係を有する重要な地域であり、例えば、2011年の日台間の貿易総額は約704億米ドルであり、貿易相手として、中国、米国、韓国に次ぎ4番手になります。また、現在台湾進出が中国への進出ルートとしても、日本、台湾の双方で多く取り上げられております。このような中始まりました、新たなビジネス上のツールであります特許審査ハイウェイについて、本稿で紹介致します。



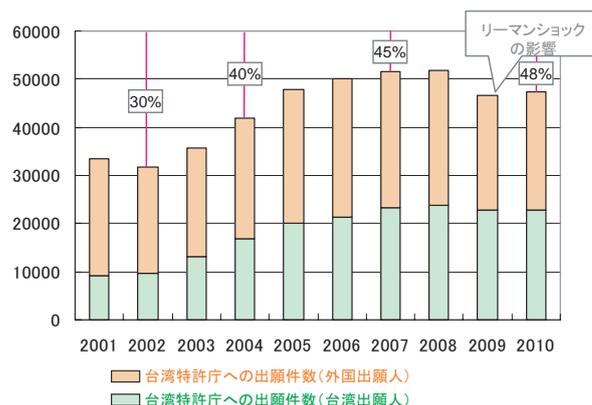
日台特許審査ハイウェイの覚書署名

<台湾における知的財産の状況>

日本からの海外特許出願のうち、台湾への出願件数は米国、中国、欧州、韓国に次いで5番手となっており、日本から台湾への特許出願件数は、約11,800件(2011年)となっています。

台湾出願人の出願件数が近年増加する中、日本出願人による出願は台湾の20%を超え、日本企業が台湾を重要視していることがうかがえます。

また、台湾から日本への特許出願件数は、約1,300件となっており、米国、中国に次いで、多く出願がされています。このように日台双方において、知的財産に関しても、非常に密接な関係を有していることがわかります。



台湾における特許出願の推移

<特許審査ハイウェイ>

特許審査ハイウェイとは、第1庁(先に出願を行った特許庁)で特許可能と判断された発明を有する出願について、出願人の申請により、第2庁(第1庁に続いて出願を行った特許庁)において簡易

な手続で早期審査が受けられるようにする枠組になります。そのため、日本企業は、日本特許庁での審査結果を報告することなどを条件に台湾特許庁（智慧財産局）に特許審査ハイウェイの申請を行うことで、現在通常の案件では審査着手に40ヶ月程度待たされるのに対し、これまでの加速審査制度<sup>1</sup>での応答期間よりも短い1.1ヶ月という短期間で結果を得ることが可能になります。

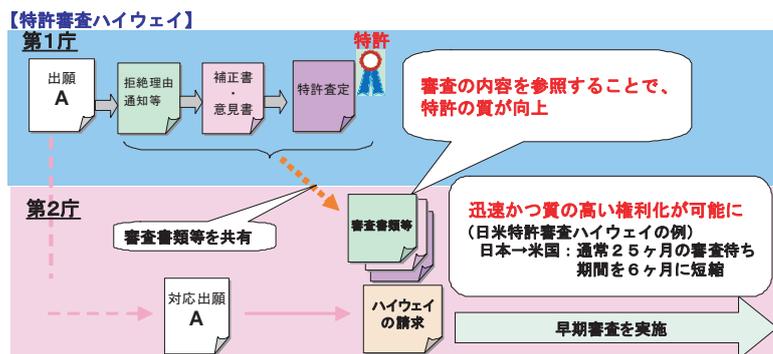
特許審査ハイウェイを利用した場合、既に第1庁で特許権として認められたものが、第2庁で審査が行われるため、第2庁での審査負担が大幅に軽減され、審査の手続回数<sup>2</sup>が減少することが多く、代理人手数料や翻訳費用が削減される可能性があるという利点もあります。加えて、特許権として認められる可能性が大幅に増加することがこれまでの他の国・機関とのハイウェイの実績<sup>3</sup>からも認められています。そのため審査順番待ち期間も短縮され、世界中で短期間に効率的に権利を取得するという出願人のニーズにもマッチします。

#### <日台特許審査ハイウェイへの期待>

日台特許審査ハイウェイの実施により、日台双方の出願人にとっては相手方区域における特許権の迅速かつ安定した取得が可能になると共に、各特許庁にとっては第1庁の先行技術調査と審査結果を活用することで、審査の負担を軽減し質の向上を図ることが出来ます。

本ハイウェイ制度は、日台間の特許権取得の促進、ひいては日台経済関係の更なる発展につながるという意味で重要になります。日本は、台湾も含め既に23の国・機関と特許審査ハイウェイを実施しており、日台特許審査ハイウェイの開始により、日本からの海外特許出願の9割以上について特許審査ハイウェイの利用が可能となります。このことは、日本企業の海外展開において鍵となる特許権を早期に世界中の各国で取得するための枠組みが更に強化されるという点でも大きな意味を持ちます。

ビジネスのグローバル化が進む中、ビジネスの基礎となり、また攻撃・防御のツールとなり得る特許権を迅速且つ確実に取得することで、海外展開の一助につながるものと期待されます。



<sup>1</sup> 加速審査制度とは、外国特許庁で特許査定を受ける等の条件を満たす場合に、優先的に審査を受けることができる制度であり、その応答期間は数ヶ月程度。

<sup>2</sup> <米国特許商標庁における平均手続回数>  
2010年12月末時点 1.9回（PPH案件） 2.4回（全出願）

<sup>3</sup> <日米特許審査ハイウェイの最終特許査定率>  
後続特許庁が米国特許商標庁の場合 92%（PPH案件） 46%（全出願）  
後続特許庁が日本特許庁の場合 64%（PPH案件） 41%（全出願）

# リービ英雄と温又柔 —台湾との関わりを持つ外国人日本語作家—

名古屋大学大学院博士課程 張 雅婷

## はじめに

1990年代以降、日本語で小説の創作を行なう外国人作家たちが日本文壇に続々と登場する。彼らは、従来の植民地文学や在日文学の歴史的要素とは違って、あえて自らの意思で母語以外の日本語を創作の手段として選択したのである。その先駆けとなるのは、デビュー作の『星条旗の聞こえない部屋』(1992)で野間文芸新人賞を獲得し、西洋出身の日本語作家として脚光を浴びたリービ英雄(アメリカ)と言ってもよいであろう。それ以降、デビット・ゾペティ(スイス)、楊逸(中国)、シリン・ネザマフィ(イラン)と温又柔(台湾)らが登場し、各種文学賞を受賞して、注目されている。その中で、リービ英雄と温又柔という二人の作家を見ると、実人生や創作の中で「台湾」が重要な位置を占めていることが分かる。リービは台

湾で子供時代を過ごしているが、温は台湾人の両親を持ちながらも、日本育ちである。二人はそれぞれ異なる境遇におかれてはいるが、同じ日本語で台湾に対して抱える思いをしばしば作品の中に書き入れたのである。

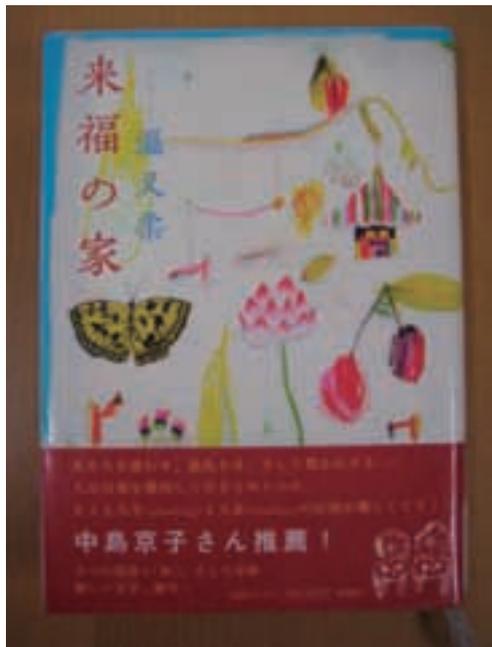
## 1. 台湾との関わり—作家の生い立ち

リービ英雄(Ian Hideo Levy, 1950~)は、ユダヤ系アメリカ人で、父の外交官の仕事のため1950年代後半を台湾で幼少期を過ごした。その後、両親の離婚でしばらく母と重度の知的障害を持つ弟と共に香港に滞在した後、アメリカに戻った。一方、父は台湾で知り合った上海出身の中国人女性と再婚し、横浜のアメリカ領事館に転任した。そして、1967年に横浜の父を訪ねた体験が、彼の日本語人生を切り拓く契機となったのみならず、デビュー作の創作にも繋がった。帰米後、大学で日本文学を専攻し、万葉集の研究で博士学位を取得した。プリンストン大学とスタンフォード大学で教鞭を執ったが、1990年に作家活動に専念するために日本に移住した。現在は法政大学の教授である。

一方、温又柔(おん・ゆうじゅう, 1980~)は台北生まれ、3歳の時に父の赴任に伴って日本に移住した。2006年法政大学大学院を修了し、彼女の創作活動に励む。リービ英雄とは師弟関係でもある。2009年、小説の「好去好来歌」で第33回すばる文学賞佳作に選ばれた。その後、文芸誌『すばる』に「来福の家」(2010)を発表し、翌年にこの



リービ英雄の著作集



温又柔の初めての小説集『来福の家』(集英社、2011)が刊行された。

二作を併録した同名の小説『来福の家』(2011)を刊行した。小説に登場する女主人公は、何れも作者自身を思わせる人物である。台湾語や中国語、日本語の飛び交う家庭環境で育てられる中での、自分の名前が絡み合った文化、言葉やアイデンティティの葛藤を描き出した。また、日本植民地時代や戦後の台湾社会の状況も織り込んだ。他にも、手記の『たった一つの、私のものではない名前 my dear country』(2009)と小説「母のくに」(2011)がある。

## 2. 母語以外の可能性—日本語を表現手段として

なぜ日本語で書くのか？リービ英雄は17歳の時、新宿に家出した体験を機に、日本語の世界に投げ込まれた。それ以来、アメリカで日本文学研究や万葉集英訳などを行なう傍ら、日本の文壇とも交流を保ち続けた。そして、中上健次から「おまえも日本語で書け」との激励を受け、日本語で書き始めた。彼は、エッセイ集の『アイデンティティーズ』(1997)の中では、自分の人生の「時代」を区切る三つの言葉があると書いた。母国語とし

ての英語、子供時代の「第二母国語」としての中国語、そして思春期からの「継母国語」としての日本語。現在、彼は中国を訪ねる時に話し言葉としての中国語を使い、そこでの見聞や体験を日本語で書き続けている。

リービの17歳から始まった日本語人生とは違って、温は幼い頃から日本人と同じ学校教育を受けてきた。彼女は、名前や家で両親の使う言葉、入国管理局での手続きを除いて、自分の日本語や身振りが普通の「日本人」と変わらない。しかし、彼女は手記の中で「私は日本人じゃない、といつもどこかで思っていた。かといって、自分は台湾人だ、とはっきり思っていたわけでもなかった」という心情を吐露した。この揺れは、彼女の創作意欲を掻き立てる原動力ともなっているであろう。彼女は、リービの「継母国語」に倣えて、日本語を育ての母(語)のような「養母語」の存在と言った。また、温は大学時代に改めて中国語の習得を志し上海留学をする。そうした日本と台湾、さらに留学先の中国上海での体験を通し感じた「外国人」のままにいる自分は小説の中に投影されている。

## 3. 描かれた台湾—小説の紹介

リービは1993年に初めて中国の北京を訪ねた後、二作目以降の小説『天安門』(1996)、『国民のうた』(1998)と『ヘンリーたけしレウィツキーの夏の紀行』(2002)に亘って、詳細に台湾での記憶を書き綴った。1950年代後半、彼の一家は台中にある日本人が残した木造家屋に住んでいた。それは日本時代に建てられた中産階級以上向け住宅群の「大和村」だが、戦後になって模範村と改称された。小説に描かれた台湾での記憶としては、高い塀に囲まれた庭付きの家に、用人のラオ・シエや、よく家に入出入りする国民党老将軍たち、さらに家族を崩壊させる中国人女性までも触れている。そして、彼の耳に入った「光復大陸」の音頭

や、映画館で流した「三民主義」、父に「Mao is crazy」と苛立たせた共産党の砲撃の描写からは、冷戦時代の雰囲気がとてもリアルに伝わってくる。彼は年譜やエッセイでは、台湾の家を「故郷」「自分の家」と言い続けており、自らの中国語を培った環境のみならず、両親が離婚する前の幸福感を味わった場所でもあったとしている。

さて、一方で台湾生れ日本育ちの温は、台湾をどう描いたのか。ここでデビュー作の「好去好来歌」を取り上げてみよう。この小説は、主に女主人公が日本で体験したアイデンティティの悩みや言葉の葛藤に力点を置いて書かれているものの、台湾への言及も多く見られる。両親の語りを通じて構築される「台湾」は、日本の植民支配や戦後の国民党統治、田中角栄首相による国交断絶などの特殊な政治状況を抱えている。また、そこに挿入される母の家族の物語に描かれた、大陸からの漢族移民と思わせる故里がない曾祖父、日本統治時代に日本語の教育を受けた祖母、1950年代に小学校で中国語を強制された母親などの描写には、台湾の複雑さがよく表現されている。温は、後の「来福の家」や「母のくに」では、歴史の重みを減らしたが、依然多様な角度で台湾との繋がりを題材にしている。

## 終わりに

以上のように、リービ英雄と温又柔の創作活動

をみることで、この二人がなぜ日本語で書くか、また何を書くかという疑問が解明されたのではないかと思う。また、リービや温にとっては、日本語で書くこと自体がそれなりに重要な意味を持っており、台湾は、二人の実人生や小説創作において、リービの子供時代の記憶や温の両親の故郷として看過できない要素でもある。

リービ英雄の『星条旗の聞こえない部屋』(1992)は、2011年6月に英語版『A Room Where The Star-Spangled Banner Cannot Be Heard: A Novel in Three Parts』(2011 Columbia University Press)と中国語版『聽不到星條旗的房間』1(2011 聯合文学)が同時に刊行された。現在、彼が日本語で書いたものは日本人のみならず、翻訳を通してより広汎な読者に届けられている。つまり、彼が海を渡って日本に移住し、日本語で書く作家を志すとは正反対に、彼の小説は訳されて海を渡って広がっていくのである。これは、まさに彼の主張する日本の単一民族イデオロギーを超越した「日本語の勝利」の頂点に達しているのではないかとも思えるのである。

1 この訳書に収録したのは、「国民のうた」(1998)、「星条旗の聞こえない部屋」(1987)と「千々にくだけて」(2004)の三篇だが、原著の所収とは若干違っている。

## 台湾内政、日台関係をめぐる動向（2012年3月中旬-5月上旬）

# 民生問題に苦しむ馬總統、東日本大震災1年

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）  
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

2月に発足した陳冲内閣は、経済振興、財政再建などの内政問題で期待されたが、食肉の安全問題、電気ガソリン料金の値上げに伴う物価上昇などから、政権運営への批判が高まり、再選直後にもかかわらず馬總統への満足度が急落した。民進党次期主席選挙は、5人が立候補しているが、蘇貞昌元行政院長の当選が有力視されている。東日本大震災から、1年を機に台湾各地で追悼、感謝記念活動が開催された。

### 1. 民生問題に苦しむ再選後の馬總統

3月以降、米牛肉、鶏豚肉など食肉にかかる「食品安全問題」が台湾社会を揺るがしたほか、4月には電気、ガソリン料金の引き上げが発表され、物価高に対する台湾住民の不満が高まった。

#### （1）家畜肉の安全問題

##### 米国産牛肉の輸入開放問題

米国産牛肉の輸入問題は2009年の秋から冬にかけてBSE（牛海綿状脳症）感染牛に対する懸念が強い台湾世論の反発を引き起こし、超党派の立法委員から批判があがり、当時の国家安全会議秘書長であった蘇起氏の辞任問題にまで発展したことは記憶に新しい。

今回の騒動は、食肉の赤身を増し、飼料代の節約にもなることで米国など一部の国で使用されているラクトパミンという添加化合物を含む飼料を食して成長した牛肉の台湾への輸入開放の可否にかかる騒ぎである。台湾ではラクトパミンは「瘦肉精」と書かれ、語感的には、不健康な「添加化合物」というイメージを想起させるものであり、また右食肉を食した者への人体被害なども一部報告されたことに加え、EUでは「瘦肉精」入りの食

肉の輸入が禁止されていることが報道されたため、台湾社会では「なぜ我々もEUと同じように安全な米国産牛肉を消費できないのか」と大きな反発を引き起こした。

住民の不満に対し政府高層は、3月2日に国家安全会議を開催し、馬總統が米国産牛肉の輸入開放に関しては、「期限を設けず、前提立場も設けない」とし、「専門家の意見を尊重し、国民の健康を重視した上で、慎重な評価を下す」と「輸入開放が既定路線」とみなす世論に対し火消しに躍りとなった。<sup>1</sup>同4日に開催された国家安全会議では、馬總統は「国民の健康に無害であることを前提として、国内産業、貿易、外交等の要素を考慮して対策を提出するよう」行政院に指示したと報じられた。<sup>2</sup>

6日、行政院は専門家会議の決定を経て、安全面での確保、牛豚肉を分けて処理、牛肉の生産地の表示、内臓は除外（「安全許容、牛豚分離、強制表示、内臓排除」）という4原則の下で「瘦肉精」が含まれる米国産牛肉の輸入開放を条件付で許可し、実施に係る関連法案改正案の提出を表明した。<sup>3</sup>政府の決定につき民進党は、林俊憲報道官が「先日、馬總統が、（牛肉輸入開放の）タイムテーブルも決まった立場もない」と表明していたが、

実際には「台湾社会においてコンセンサスがないまま開放に踏み切った」として、民進党は米牛肉の輸入開放に徹底抗戦すると強調した。<sup>4</sup>その後、立法院では関連の法改正をめぐる問題で台湾団結聯盟が一部の議事進行をボイコットしたが、一方で米国の台湾における出先機関 AIT (米国在台北協会) 台北事務所のスタントン代表は、『中央通信社』のインタビューを受け「米国産牛肉の輸入開放問題を解決する前に、米台投資枠組み協定 (TIFA) の再開は困難である」として、牛肉問題が米台貿易関係発展の障害になっているとの認識を示し、米牛肉問題が米台関係に与える影響を示唆した。<sup>5</sup>その後、行政院は5日、米牛肉の輸入開放にかかる『食品衛生管理法』改正案を閣議決定し、関連法案を立法院に提出することとなった。<sup>6</sup>

その後、台湾社会は後述する電気、ガソリン料金の価格引き上げ問題による世論の反発により、「瘦肉精」問題は一時的に表舞台から退いたが、5月上旬に、民進党から、実質上「瘦肉精」が含まれる食肉の販売を禁じる修正法案が提出され、国民党の一部委員が欠席したことにより衛生環境委員会で民進党版修正案が採決されるなど今後の動向は紆余曲折が予測されている。<sup>7</sup>一方、政府筋は、立法院の今会期終了までに米牛肉輸入の条件付開放にかかる修正法案の可決を絶対的な任務として国民党委員に指令を出しており、会期末に向けて右問題をめぐる与野党の攻防が白熱化することが予測されている。<sup>8</sup>

#### H5N2 型インフルエンザ問題

農業委員会防検局は3月3日臨時記者会見を開催し、昨年12月末と今年2月初旬に、彰化県と台南市の養鶏場で H5N2 高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、二県の養鶏場で5万3千個の卵と4500羽の鶏を処分したと発表した。<sup>9</sup>同事案について、農業委員会は社会の不安を引き

起こしたとして、国民に謝罪し、許天来防検局長の辞任、降格人事を発表した。<sup>10</sup>

#### 豚肉の瘦肉精問題

3月12日、牛肉問題で揺れる台湾で法律で禁止されているはずの国産豚肉からも米国産牛肉で使用されているものより毒性の強いとされる「瘦肉精」が検出されたことを受け、農業委員会は3月14日以降、豚肉を市場に出荷する前に、「瘦肉精」の未使用を保証する自己申告書の提出を義務付ける「養豚場違法査察強化措置」を発表した。同日豪州、ニュージーランド産の牛肉から含まれないはずのラクトパミンが検出され、7千トンのあまりの牛肉を焼却処分にしたと報じられた。<sup>11</sup>一連の牛、鶏、豚肉の安全問題が台湾住民を動揺させたことにつき陳行政院長は陳謝したが、一連の「事件」は台湾における食肉の安全管理問題の深刻さを認識させられることとなった。<sup>12</sup>

#### (2) ガソリン、電気など公共料金の値上げ関連

経済部は4月1日、政治的考慮から凍結されていたガソリン価格の値上げを発表した。上げ幅は、1リットルあたりレギュラーガソリンで2.2-2.3元、ハイオクガソリンで3.6-3.7元となった。<sup>13</sup>経済部は今回の値上げ措置は、正常な市場価格に準じた価格メカニズムへの復帰であると説明した。翌3日、馬総統はフェイスブックで「ガソリン、電気料金の値上げ問題につき世論に不満があることを承知している」としながら、「社会各界は中国石油、台湾電力など国営企業の給与体系、業績に疑問を抱いていることも承知しており、定期間内にこれら国営企業の業績について検討する」と国営企業改革の意向を強調した。<sup>14</sup>右指摘は、一部の国営企業が放漫経営をしているにもかかわらず、職員は定期昇進があり、福利厚生も補償されていることに対する不満が高まっていることへの対応である。住民の不満は、国営企業

の赤字の穴埋めを安易な値上げにより、損失補填しようとしたことにある。

4月9日には、台湾電力が監督機関である經濟部に提出した「電気料金合理化方案」(値上げ方案)によると、5月20日前に民生用は平均で11.5%、商業及工業用電気は15-30%の値上げになると報じられた。<sup>15</sup>アフリカ訪問中の馬総統は、当地で行った記者会見で「罵られても値上げはやる。今やらなければ後日後悔する」として、国民に歓迎されない政策でもやるべきことはやるとの姿勢を強調した。<sup>16</sup>一方で国営企業に対する批判が高まったことから、經濟部は台湾電力、中国石油に対し部内に「経営改善小組」を設置させ、購買価格、事務費用などのコスト削減を求めた。具体的には業務関連でそれぞれ50億元、20億元、事務費用に関しても最低10%の経費削減として25億元、30億元の削減を指示したと報じられた。<sup>17</sup>施顔祥経済部長は、台湾電力の提言に基づき同12日に電気料金合理化方案を公表した。右方案によると新価格は、5月15日から実施され、住宅用電気料金は平均17%、商業用は約30%、工業用は約35%の値上げになると報じられた。<sup>18</sup>

その後、電気料金の上げ幅の大きさに影響され、民生物資、屋台を含む飲食店での小幅の値上げが目につくようになった。日増しに高まる電気料金の値上げに対する批判の中で、4月末、馬総統は自らが主催する総統府、行政院、党要人のハイクラス会議を開催し、公共料金の値上げ問題につき対応を協議した。出席者によると王金平院長が電気料金の値上げについて、5月、10月と段階的に実施すべきと主張し、蕭萬長副総統が同提案を支持したほか、陳行政院長も反対しなかったことをふまえ、馬総統は行政院、經濟部に新たに価格の値上げ幅、時期に関する評価と検討をするよう指示したと報じられた。<sup>19</sup>

ハイクラス会議の翌5月1日夜10時に、馬総統は、陳行政院長、江宜樺行政副院長、林益世秘

書長、施顔祥経済部長らを伴って記者会見を主催し、事前に発表していた5月中旬に電気料金を一度に大幅値上げする方案を修正し、6月10日に従来の上げ幅の40%、12月10日に再び同40%の値上げを施行した後、最後の20%は台湾電力が台湾住民が受け入れられる具体的な改革措置を実施後に、改めて値上げの期日を決定するとする三段階の値上げ方案を説明した。<sup>20</sup>また関連措置として、グリーンエネルギー政策の推進、便乗値上げの監視、消費物価の抑制なども説明した。

右決定に対して、民進党陣営はベテラン立法委員である柯建銘が今回の措置は「一撃射殺」が「段階的リンチ」に代わったに過ぎないと揶揄したほか、台聯の許忠信立法委員は国営企業の関連予算についてはボイコットすると徹底抗戦の構えを見せた。親民党の李桐豪立法委員は先に台湾電力の財務状況を改善した後に電気料金の値上げにつき議論すべきであると指摘するなど、野党陣営は異口同音に政府の政策を批判した。<sup>21</sup>企業界からは、電気料金の段階的値上げが物価の上昇を抑える効果は限定的であるという見方が大勢となっている。例えば、食品業者は、すでに値上がりした商品の主要な原因は原材料価格の大幅な値上がりであり、元の価格に下がることはないという指摘した。<sup>22</sup>

今回のプロセスは、馬総統自ら認めたように台湾電力の経営を助けるという意図が先にあり、当初はいかなる反対があろうとも改革を断行するという態度であったのが、庶民の怒りと右を背景にした立法委員などの圧力、最後には副総統と国会議長からも圧力を受けて既存政策の修正を余儀なくされた。<sup>23</sup>右措置により、平均的な4人家族の夏季電気代の例では、1ヶ月143元少なくなるという試算がされた。<sup>24</sup>

家畜食肉問題、公共料金値上げ問題にかかる一連の混乱を観察して感じたのは、「改革者」としての馬総統の意志を感じることは容易ではあるが、

行政部門と立法部門の十分な政策にかかる意思疎通、摺り合わせが不足していることから、特に不人気な政策を断行する際に、与党立法委員の協力が得られず、世論の反発を受け、最終的には妥協、譲歩するという結果に終わったことである。このプロセスでは、馬総統は、世論の痛みや苦しみを理解する物分りの良い指導者ではなく、台湾的な表現では「ガッツのない」、「気迫の足りない」指導者のイメージを残した感がある。今回の挫折も二期目の就任を前に、大きな教訓となった。

### (3) 馬総統の満足度の急落

上述したように、「瘦肉精」を代表とした米牛肉問題、公共料金の値上げ問題があり、3月以降馬総統への満足度が急降下した。<sup>25</sup>

馬総統に対する満足度は、2009年6月の党主席兼任以降、満足が不満を上回ることはなかったが、今年の総統選挙後3週間に実施した2月の調査では、満足が2年8ヶ月ぶりに不満を上回ったのも束の間、3月に「瘦肉精」牛肉問題が起これば、不満が過半数を上回り、4月の調査では2009年8月の「八八水害」以来となる不満が60%を超える事態となった。4月の調査は、馬総統がアフリカの友好国3国を訪問した直後であった。外遊はしばしば、政治家にとって支持率アップが期待できる活動であるが、今回の外遊は訪問国指導者との「腕立て伏せ」、「ジョギング」、「PK戦」などの対決、パフォーマンスばかりがメディアに取り上

げられたこともあり、TVBSの調査では同外交活動についても不満44%が満足23%を大きく上回る結果となった。

陳内閣への満足度調査も同時に実施され、不満46%が満足23%を大きく上回る結果となった。<sup>26</sup>右結果は「安心内閣」を標榜していた陳内閣は早くもつまづく形となり、5月の総統就任式の際には経済部長など関連部門の長の更迭が囁やかれるようになっている。

## 2. 彰化県鹿港鎮町補選は民進党候補が圧勝

4月28日に投開票が行なわれた彰化県鹿港鎮長（町長に相当）補選は民進党公認の黄振彦同県議が新人の国民党公認の蔡明忠候補を大差で破り勝利した。本年2月に同県で実施された花壇郷長補選でも民進党候補が勝利しており、国民党は同県鎮長補選で「連敗」となった。<sup>27</sup>

日本の町長、村長選挙に相当する台湾の鎮長、郷長選挙でも与野党の政党対決になることが珍しくなく、今選挙では馬総統への施政の不満が高まっていたことから、総統選挙後の世論の雰囲気や推し量るものとして注目された。そのせいか今補選でも民進党は蔡英文前主席、蘇貞昌元行政院長などが現地入りし、「馬総統の施政に対する不満を表明しよう」とい国政レベル的な主張を有権者に訴えた。<sup>28</sup>選挙戦の当初の見通しは、1月の総統選挙における当該選挙区で民進党（蔡英文）の得票数が国民党（馬英九）を上回っていたこと

表1 馬総統のパフォーマンスに対する満足度調査

	満足	不満	意見なし
2011.12.27 (選挙半月前)	40	45	15
2012.02.09 (陳冲内閣)	40	37	23
2012.03.13 (米国牛肉)	28	50	22
2012.04.19 (アフリカ訪問)	22	61	17

資料元：「馬總統仁誼之旅滿意度民調」『TVBS』（2012年4月19日）

[http://www1.tvbs.com.tw/FILE\\_DB/PCH/201204/ljl6g8i3iu.pdf](http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201204/ljl6g8i3iu.pdf)

表2 鹿港鎮の最近の選挙の民進党、国民党候補の得票比較

	国民党	民進党	投票率
2009年鎮長選挙	80.75% 31249票	19.25% (無所属) 7450票	64.46%
2012年総統選挙	46.12% 22863票	50.73% 25150票	77.53%
2012年鎮町補選	28.89% 9048票	71.11% 22275票	48.93%

資料元：「彰化縣鹿港鎮近三次選挙國民黨得票率消長表」『聯合報』（2012年4月29日）頁2。

に加え、年初以来の民生物資の値上がりに追い討ちをかける電気料金の値上げ発表もあり、国民党は苦戦必至と見られていた。2月の花壇郷長補選での敗北もあり、国民党は候補者の人選に苦しんだようで、2月末になって同県医師会理事長である蔡候補に決まったが、同人は立候補までの過程で馬総統から直々に電話で説得されたなどの舞台裏を明かしていた。<sup>29</sup>

投票結果は表2で記すように国民党候補は、得票率3割にも満たない惨敗となった。<sup>30</sup>右結果を受け、陳菊民進党代理主席は「今選挙結果は鹿港住民の改革への深い期待に反応しただけでなく、馬政府の施政失敗に対する不信任投票の結果である」との考えを示した。<sup>31</sup>一方敗れた国民党は、「選挙の敗北を深く検討し、引き続き努力していく」と莊伯仲文化傳播委员会主任委員が述べるにとどまった。<sup>32</sup>総統再選から3ヶ月、馬総統は世論の厳しい審判を受けることとなった。

### 3. 民進党主席選挙関連

#### (1) 候補者の出馬

4月12日、許信良元主席は次期主席選挙への出馬を前に『中国時報』紙のインタビューを受け、「蔡英文前主席が2016年の総統選挙への再挑戦の支持を次期主席選挙の主軸にする」とし、「蔡女史は民進党が政権復帰するための唯一の資産であり、自分は党主席就任後、党組織の改造と対中国政策の修正を行い、蔡英文前主席が党改革を行うにあたってのあらゆる障害を取り除き、政権復帰

への道を決かなものにする」と指摘した。<sup>33</sup>許元主席の発言は、同じく次期主席選挙に出馬する蘇貞昌元行政院長を意識したものと推測されるが、蘇陣営は幕僚が「現段階では2016年のことは考えるべきではなく、台湾住民の期待を集め、民進党が更に良くなることに傾注すべきである」と応えるにとどまった。<sup>34</sup>

4月13日、民進党は次期党主席選挙の候補者名簿を公表した。<sup>35</sup>最終的に5名が登記したが、表3は候補者の主な経歴と政見である。

次期党主席選挙は、党員選挙だけで実施される。『TVBS』は4月11日から12日にかけて次期主席選挙にかかる支持率調査を実施した。右結果は表4に記したが、全体の調査では蘇元行政院長が45%の支持を獲得、政党支持別に分けた調査でも蘇元院長は62%の圧倒的な支持を得て、2位以下を引き離す「一強四弱」の結果となった。<sup>36</sup>

単純な計算で仮に蘇元院長以外の四候補が最終的に候補者を一本化しても蘇氏の優位は揺るがないと見られているが、許元主席などは、「自身は2016年の総統選挙への野心はない、蔡英文を推す」として、党内で蘇氏に唯一対抗できるとみなされている蔡前主席を引き込む動きもあり、不確定要素もある。なお民進党は4月下旬から3回にわたる候補者による弁論会が開催される予定であり、7月号で弁論会の議論の内容を、選挙結果をふまえて報告する予定である。

表3 民進党主席選挙出馬者の比較表

	許信良	蘇貞昌	蘇煥智	吳榮義	蔡同榮
年 齢	71	64	55	73	76
経 歴	桃園県長 党主席	行政院長 総統府秘書長 台北県長 屏東県長 党主席	台南県長 立法委員	行政院副院長 総統府資政 台湾経済研究院 院長	立法委員 民視テレビ創始 者
学 歴	エジンバラ大哲 学修士	台湾大法学学士	輔仁大法学修士	ルーヴン・カト リック大経済学 博士	南カリフォルニ ア大学政治学博 士
政 見	蔡英文前主席の 2016年総統選 挙の再挑戦	2014年の選挙 勝利、政権復帰、 党創設の精神を 取り戻す	次世代による指 導、世代を超え、 党派を超えた協 力	党創設の精神を 取り戻す、台湾 の主体性を維持	米国に対する民 進党支持の訴 え、陳水扁前総 統の特赦

資料元：「民進党主席参選人比較表」『聯合報』（2012年4月14日）頁20。

表4 民進党主席選挙にかかる世論調査

	全体 (100%)	政党支持傾向			
		民進党 (24%)	国民党 (27%)	中立 (44%)	その他 (5%)
蘇貞昌	45	62	52	33	28
蘇煥智	9	14	7	6	13
許信良	6	2	12	4	9
蔡同榮	2	4	0	2	4
吳榮義	2	5	1	1	7
わからない	36	12	27	53	38

資料元：「民進党主席選挙民調」『TVBS』（2012年4月12日）

[http://www1.tvbs.com.tw/FILE\\_DB/PCH/201204/y946jzhayk.pdf](http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201204/y946jzhayk.pdf)

#### 4. 『天下雑談』による蔡英文前主席のインタビュー

総統選挙敗北の責任を負って、辞任した蔡英文女史は、主席辞任の際に、今後の動向として、「公益に従事したい」とだけ述べ明言は避けていたが、党内外から依然として2016年の総統選挙への再挑戦を望む声もあり、その行方は注目されていた。3月下旬に、同女史は主席辞任後、初の形となるインタビューを『天下雑誌』から受け、兩岸関係、自身の動向などにつき語った。<sup>37</sup>

中国との関係、認識については、「自分が提出した、台湾は中華民国であり、中華民国は台湾であ

る（台湾就是中華民国、中華民国就是台湾）ことにつき、党内部で同意しない意見もあったが、世論調査が示したように大部分の人は支持している。したがって、民進党には路線或いは立場上の問題はない」として、党内に兩岸政策にかかる路線上の問題はないとの認識を示した。兩岸関係の現状については、「台湾社会の最大のコンセンサスは現状維持である。しかし、現状を維持することは何もしないということではない、何故なら外部の形成は変化しており、特に中国ファクターはどんどん強くなっている。また、台湾も過去から未来にかけて変革中の社会であるところ、変革中の社会が変動中の中国に向き合い、現状を維持し

ていくことになる。この関係は動的なもの、つまり兩岸双方が変化しているだけでなく、世界の形勢も変化していることを認識する必要がある。したがって、右問題を処理するには、堅実な基礎、更には成熟した処理能力が必要であり、これは全ての執政者が向き合わねばならない挑戦である。」と指摘した。また国民党が主張し、現在、兩岸間の交流の基礎、前提条件となっている「92年コンセンサス」については「国民党の角度からすれば、一時の問題を解決することはできるかもしれないが、右は虚構のものであり、大きく変動する形勢を解決するには不足している」とその限界を指摘するとともに、自身が提唱した台湾コンセンサスに関しては、「選挙期間中、十分な時間を使って説明することができなかった」と説明不足であったことを認めた。一方で「台湾住民の2300万人が我々の将来を自身で決定する権利を有する」と李登輝、陳水扁以来一貫して主張する台湾住民自決の論点を強調した。

主席退任後の次の動向については、「自分は総統候補であったから、チーム<sup>38</sup>を維持していくことに責任があり、彼らに引き続き自信を持たせることが必要である。これは自分がすべきことであり、他のことは今後語る」と答えたが、記者から「ポストがないのに、どのようにチームを維持するのか」との質問に対しては「自身は民進党ではできないことをなるべくするつもりであり、いわば幅広い社会とつながることである。党主席時代には行動に限界があった。民進党の支持層は基層レベルが中心であるが、知識分子層の支持を拡大する必要があり、社会の他の組織、集団との関係を深めなければならない」と述べた。

兩岸関係の現状認識などは、選挙期間中の発言と大差はなかったが、自身の動向については、今後を示唆する動きも見られる。報道では、蔡女史は総統選挙の余剰金を使って自身の事務所を成立させ、自前の基金会の設立準備を進めていること

から、議員等公職についていない自身の選挙チームの人物を引き込み世話をしながら、自身は公益活動などを通じて知識分子を含む社会との対話を重ね、2016年の次期総統選挙に挑戦する準備をしていくと推測することは可能である。現段階で早すぎるかもしれないが、次期党主席選挙では許元主席が蔡女史を「利用」しているように、蔡女史の党内での声望は高く、筆者も次期総統選挙の有力候補であると見なしている。

## 5. 311大地震一周年記念関連

2011年3月11日の東北大地震から1年を機に関連追悼活動が台湾各地で開催された。本稿では台湾において筆者が直接関与した活動を中心に紹介する。

### (1) 在台日本人有志による支援感謝活動

3月11日、日本人留学生、日本人会ら有志による「謝謝台湾!三一地震支援日本感恩活動」が新北市淡水で開催された。<sup>39</sup>日台関係筋では、岡田交流協会台北事務所総務部長、楊永明新聞局長が挨拶に訪れた。右活動では、日台有志が被災地の平和と速やかな復興を祈り、折鶴を折り、会場に準備された日本と台湾の地図の上に折鶴を貼ったほか、地震発生時間の日本時間午後2時46分に黙祷が行なわれた。そのほか、ミニコンサート、和服の試着など、右イベントは若者を中心ににぎわった。

### (2) 交流協会台北事務所主催によるレセプションの開催

3月12日、台北市内で交流協会台北事務所主催による「東日本大地震追悼暨復興感恩酒会」が開催された。台湾側からは馬総統、呉敦義次期副総統、楊外交部長、廖了以亜東関係協会会長、次期駐日代表に決定している沈斯淳外交部次長らが出席した。右レセプションでは出席者全員で1分間の黙祷を行なった。馬総統はスピーチで犠牲者

に対して哀悼の意を表明したほか、福島第一原発から半径 30 キロ以内及び計画的避難区域を除く福島県全域に対する渡航に適さないとする警報を解除することを発表した。<sup>40</sup>会場では交流協会が作成した台湾に対する感謝を示した CM、被災者から台湾への感謝メッセージの映像などが紹介された。

### (3) 天皇皇后両陛下の園遊会に駐日代表夫妻が出席

4月19日に天皇皇后両陛下主催の春季園遊会で、日台断交後台湾の駐日代表として初めて出席した馮寄台駐日代表は天皇陛下より台湾の震災に対する支援に関し感謝の念を述べ、右場面が日本で放映されたテレビ映像を使って報じた。<sup>41</sup>右につき章計平・外交部報道官は、日本各界の台湾(の支援)に対する感謝の行動は、天皇陛下の馮代表への直接の感謝のお言葉をかけたことに現われており、また台日間の友好関係と民間の深い友誼を代表するものであると指摘した。<sup>42</sup>

## 6. 日台実務交流関連

### (1) 大橋光夫交流協会会長と蕭萬長副総統の会見

大橋交流協会会長は、4月10日総統府で蕭萬長副総統と会見した。<sup>43</sup>蕭副総統は、馬総統を代表して歓迎と感謝の意を述べるとともに、馬総統は対日関係を非常に重視しており、そのため日本と血のつながりのある廖了以元総統府秘書長を亜東関係協会会長のポストに招いたように今後の日台関係の発展に期待していると述べた。同副総統は、副総統退任後、亜東関係協会と日本の企業界と緊密に連繋し、しばしば日本を訪問し、台湾と日本の中小企業間の交流と協力を推進する構想を持っていると述べた。右発言に対し、大橋会長は、貴副総統が退任後も引き続き日台関係の強化に尽力することに対して大きな期待を抱いていると述べるどころがあった。

### (2) 日台実務交流にかかる覚書の締結

4月11日、交流協会と亜東関係協会は「特許手続分野における相互協力のための公益財団法人交流協会と亜東関係協会との間の覚書」と「マネーロンダリング及びテロ資金供与に関連する金融情報の交換に関する公益財団法人交流協会と亜東関係協会との間の覚書」に署名した。<sup>44</sup>

前者の覚書は、日台双方の特許の出願人における安定した特許権の迅速な取得に資するものであり、経済面での日台間の実務交流が一層促進されることが期待されるとしている。

後者の覚書は、マネーロンダリングやテロ資金の供与を効果的に防止するため、右に関与している疑いのある金融情報に関する情報共有を目的とした協力にかかるものである。これら、2つの覚書は、2010年4月30日に日台間で署名された「交流協会と亜東関係協会との間の2010年における日台双方の交流と協力の強化に関する覚書」<sup>45</sup>に基づくものであり、今回の覚書の署名は日台関係の実務的進展を印象付けた。

### (3) 交流協会の人事異動台北事務所

公益財団法人交流協会は4月9日に第1回評議員会を開催し、畠中篤理事長の退任、今井正台北事務所長の退任及び同理事長就任、樽井澄夫外務省参与の交流協会台北事務所長にかかる人事異動を発表した。<sup>46</sup>右発表に対し、台湾新聞各紙は、事実関係を報道するとともに、樽井新所長の経歴につき今井所長と同様に沖縄担当大使の経験があることを紹介するとともに、中国課長を務め中国語に堪能であり、兩岸関係についても熟知している等報じた。<sup>47</sup>

## 7. 平沼日華議員懇談会会長と馬総統の会見

平沼赳夫日華議員懇談会会長、中井治同副会長、藤井孝男同秘書長らは3月19日に馬総統と会見した。馬総統は、平沼会長らが総統再選につき祝

意を表したことに感謝の念を述べた。また、近年の日台関係の進展を肯定するとともに、その場で新任の廖重東関係協会会長と沈次期駐日代表を紹介するとともに、日台関係の密接な友好関係の維持につき期待する旨述べられた。<sup>48</sup>

平沼会長からは、日本における東日本大震災1周年の記念式典で台湾代表を冷遇したことにつき陳謝したと報じられた。<sup>49</sup>

## 8. 森元総理の訪台

八田興一記念公園の植樹祭に出席するため訪台した森元総理は、4月12日の記者会見の際、メディアから呉伯雄国民党名誉主席が訪中時に胡錦濤総書記に言及したとされる「一国両区」の概念につき質問があり、森元総理は「重要なのは台湾住民が賛成するか否かである」とし、日本は兩岸関係が平和的手段で問題を解決することを望んでいると述べた。<sup>50</sup>

14日、森元総理は日台スポーツ・文化推進協会の発起による「日台友好絆の桜」植樹活動に出席するため台南市の烏山頭ダム風景区の八田興一記念公園で河津桜の植樹活動に出席した。<sup>51</sup>同活動には約170名の日本人が出席したほか、台湾側も頼清徳台南市長、謝謂君観光局長などが出席した。森元総理は、同イベントで昨年の東日本大震災における台湾官民の支援に改めて感謝の意を表明したほか、日台交流の進展を希望する旨述べた。

## 9. 石原都知事の東京都による尖閣諸島購入発言と台湾における反応

4月17日、石原東京都知事が訪米先のワシントンにおける講演で東京都が尖閣諸島の一部を買い取ると発言した事に関し、同諸島の領有権を主

張する台湾でも、日本の報道などを元に大きく報じられた。<sup>52</sup>台湾外交部は、章計平報道官が「中華民国はかかる発言内容を認めない、釣魚台列嶼は我が国の固有の領土であり、我が政府は『主権は我が方にあり、争議を棚上げにし、平和互惠、共同開発（主権在我、擱置争議、和平互惠、共同開発）』の原則を堅持するとともに、日本政府に右問題を慎重に処理し、台日友好関係を損なわないよう」呼びかけた。<sup>53</sup>また匿名の政府関係者（国安官員）は、「表面上はともかく、台日間で尖閣問題に関してはある種の暗黙の黙約のようなものがあり、双方は表面上は自らの立場を主張するが、双方の関係は影響を受けず、外部の者が想像するほどの緊張感はない」と指摘した。<sup>54</sup>

台湾の日本専門家は、「石原知事の考え方は日本政府とは一致していない、主流ではない考え方である」、「石原知事は行動で民主党政府の中国への対応の不満を示した」、「口だけの話だ、日本政府の対応を観察する必要がある」とのコメントを紹介した。<sup>55</sup>

また台湾における尖閣諸島の管轄となっている宜蘭県政府関係者は、「右諸島は2004年に中華民国宜蘭県の土地として登記された」と指摘するとともに、なぜ2004年に成って初めて登記されたのかということにつき、当時同県の地政局課長であった曾魏傳・現自治行政科長は、「2003年に尖閣諸島問題が騒ぎになった際、内政部が同諸島は中華民国領土として登記されていなかったことを発見し、（そのような状態で）他人（日本）と争いをしているのは理に合わないとして、関連公文を最速で発出し、宜蘭県政府が同諸島を登記するように指示した」と当時の舞台裏を回顧した。<sup>56</sup>

<sup>1</sup> 「美牛延焼 府連夜開國安會議」『聯合報』（2012年3月3日）頁1。

<sup>2</sup> 「開放美牛？ 馬『尊重專業』」『聯合報』（2012年3月5日）頁2。

<sup>3</sup> 「政院4條件開放美牛」『聯合報』（2012年3月6日）頁1。

<sup>4</sup> 民主進歩党ホームページ「反對瘦肉精美牛，林俊憲：立院及執政縣市將貫徹立場到底」（2012年3月6日）<http://www.dpp.org>。

- tw/news\_content.php?&sn=6053
- 5 「司徒文：解決美牛台美關係前進」『中央通信社』（2012年3月8日）<http://www.cna.com.tw/Views/Page/Search/hyDetailws.aspx?qid=201203080315&q=%e5%8f%b8%e5%be%92%e6%96%87>
  - 6 「陳內閣動起來 罕見宣布四『裁示』」『聯合報』（2012年4月6日）頁4。
  - 7 「瘦肉精零驗出 綠1票勝出」『聯合報』（2012年5月8日）頁4。
  - 8 「府開會因應 藍要復仇」『聯合報』（2012年5月8日）頁4。
  - 9 「首爆 H5N2 高病原禽流感」『聯合報』（2012年3月4日）頁1。
  - 10 「禽流感擴大 瞞疫情 防檢局長下台」『聯合報』（2012年3月5日）頁1。
  - 11 「豬肉驗出禁用瘦肉精」『聯合報』（2012年3月13日）頁1。
  - 12 「牛雞豬連環爆 禽流感壓垮民心 陳冲道歉」『聯合報』（2012年3月15日）頁4。
  - 13 「油大漲3元 衝擊物價」『聯合報』（2012年4月1日）頁1。
  - 14 「馬：3個月檢討中油台電績效」『聯合報』（2012年4月2日）頁1。
  - 15 「電價漲定了 520前漲11.5%」『聯合報』（2012年4月10日）頁1。
  - 16 「馬：戴起鋼盔 挨罵也要做」『中國時報』（2012年4月10日）頁1。
  - 17 「經部下令 台電中油年省125億」『中國時報』（2012年4月10日）頁2。
  - 18 「家用17% 商用30% 工業用35%」『聯合報』（2012年4月10日）頁1。
  - 19 「一次漲足 王金平主張電價分段緩漲」『聯合報』（2012年5月1日）頁1。
  - 20 總統府ホームページ「總統針對電價調漲議題召開記者會」（2012年5月1日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27084&rmid=514>
  - 「電價 確定三階段緩漲」『聯合報』（2012年5月2日）頁1。
  - 21 「三段漲 綠批分階段凌遲 民憂物價漲三次」『聯合報』（2012年5月2日）頁2。
  - 22 「電價分段調 物價漲勢回不去了」『自由時報』（2012年5月2日）頁3。
  - 23 「審慎決策 比戴鋼盔重要」『中國時報』（2012年5月2日）頁2。
  - 24 「電價轉彎 4口之家 夏季少漲143元」『中國時報』（2012年5月2日）頁2。
  - 25 「馬總統仁誼之旅滿意度民調」『TVBS』（2012年4月19日）[http://www1.tvbs.com.tw/FILE\\_DB/PCH/201204/ljl6g8i3iu.pdf](http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201204/ljl6g8i3iu.pdf)
  - 26 同上。
  - 27 「鹿港鎮長補選 民進黨黃振彥大贏」『聯合報』（2012年4月29日）頁1。
  - 28 民主進步黨ホームページ「鹿港補選 請鄉親用選票教訓不關心人民的馬政府」（2012年4月27日）[http://www.dpp.org.tw/news\\_content.php?sn=6100](http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6100)
  - 29 「鹿港鎮長補選 國民黨徵召蔡明忠」『自由時報』（2012年2月29日）頁5。
  - 30 「鹿港補選 藍慘敗 馬路更顛簸」『聯合報』（2012年4月29日）頁1。
  - 31 民主進步黨ホームページ「陳菊：是鹿港人的勝利，也是對馬的不信任投票，勉黃鎮長全力以赴，再造鹿港榮光」（2012年4月28日）[http://www.dpp.org.tw/news\\_content.php?sn=6101](http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6101)
  - 32 中国国民党ホームページ「鹿港補選失利 國民黨：深切檢討，持續努力」（2012年4月28日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7030>
  - 33 「角逐黨魁 許信良：支持小英再戰2016」『中國時報』（2012年4月13日）頁8。
  - 34 「蘇營：目前不應思考二〇一六人選」『中國時報』（2012年4月13日）頁8。
  - 35 民主進步黨ホームページ「民主進步黨2012年第14屆黨主席及第15屆全國原住民族黨員代表選舉登記名單」（2012年4月13日）[http://www.dpp.org.tw/news\\_content.php?&sn=6091](http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6091)
  - 36 「民進黨黨主席選舉民調」『TVBS』（2012年4月12日）  
[http://www1.tvbs.com.tw/FILE\\_DB/PCH/201204/y946jzhayk.pdf](http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201204/y946jzhayk.pdf)
  - 37 「如果能更積極面對，或許更好」『天下雜誌』（2012年3月21日）第493期、頁56-63。
  - 38 原文は「隊伍」であり、總統選挙を戦った主力メンバーを指すものと思われる。
  - 39 「岩手災民感謝信：發誓絕不忘台灣的溫柔」『聯合報』（2012年3月12日）頁2。
  - 40 總統府ホームページ「總統出席『東日本大地震追悼暨復興感恩酒會』」（2012年3月12日）  
<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=26656&rmid=514>
  - 41 「台灣賑災 感恩ろゝ 日皇向我代表致謝」『自由時報』（2012年4月20日）頁8。
  - 42 「感恩賑災情 日皇對我代表致謝」『中國時報』（2012年4月20日）頁6。
  - 43 總統府ホームページ「副總統接見『日本交流協會』會長大橋光夫」（2012年4月10日）<http://www.president.gov.tw/Default>

aspx?tabid=131&itemid=26898&rmid=514

- 44 公益財団法人交流協会ホームページ「特許手続分野における相互協力のための公益財団法人交流協会と亜東関係協会との間の覚書」(2012年4月13日) [http://www.koryu.or.jp/ez3\\_contents.nsf/Top/9863180816113BB9492579D5001A768A?OpenDocument](http://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/Top/9863180816113BB9492579D5001A768A?OpenDocument)。  
公益財団法人交流協会ホームページ「マネーロンダリング及びテロ資金供与に関連する金融情報の交換に関する公益財団法人交流協会と亜東関係協会との間の覚書」(2012年4月25日) [http://www.koryu.or.jp/ez3\\_contents.nsf/Top/E57276A5BD7B7783492579EB0003C093?OpenDocument](http://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/Top/E57276A5BD7B7783492579EB0003C093?OpenDocument)
- 45 公益財団法人交流協会「財団法人交流協会と亜東関係協会との間の2010年における日台双方の交流と協力の強化に関する覚書」(2010年4月30日) [http://www.koryu.or.jp/ez3\\_contents.nsf/15ae977a6d6761f49256de4002084ae/1c11e1537f7f22e949257715000a735c/\\$FILE/20100430.pdf](http://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/15ae977a6d6761f49256de4002084ae/1c11e1537f7f22e949257715000a735c/$FILE/20100430.pdf)
- 46 公益財団法人交流協会「理事選任経過について」(2012年4月9日) [http://www.koryu.or.jp/ez3\\_contents.nsf/Top/4506EDCC5C0B98BF492579DB0026E8D2?OpenDocument](http://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/Top/4506EDCC5C0B98BF492579DB0026E8D2?OpenDocument)
- 47 「樽井澄夫 將接任日駐台代表」『自由時報』(2012年4月11日)頁5。「樽井澄夫 任日交流協會駐台代表」『中国時報』(2012年4月11日)頁11。
- 48 總統府ホームページ「總統接見日本日華議員懇談會會長平沼赳夫一行」(2012年3月19日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=26744&rmid=514>
- 49 「日議員會馬 為 311 失禮道歉」『中国時報』(2012年3月20日)頁6。
- 50 「森喜朗談一國兩區關鍵在台灣」『聯合報』(2012年4月13日)頁23。
- 51 「前日相森喜朗 烏山頭植櫻」『自由時報』(4月15日)頁6。
- 52 「石原：東京都5.5億買釣島」『聯合報』(201年3月13日)頁2、「3.6億~5.5億石原慎太郎揚言買釣魚台」『中国時報』(201年3月13日)頁7、「石原慎太郎：東京都將砸5.5億買下釣魚台」『自由時報』(201年3月13日)頁12。
- 53 外交部ホームページ「本部單位主管例行新聞說明會紀要」(2012年4月12日) <http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/c4827a9c-a592-46c8-bd4e-54cdd06b7814?arfid=d45c7a81-d84b-42ee-9225-3adf34303df5&opno=c194003d-5c5a-4195-8e9c-974101490af0>
- 54 「官方立場 我外交部：不承認石原發言」『自由時報』(201年3月13日)頁12。
- 55 「學者：石原買釣島「說一說」日未必贊同」『聯合報』(201年3月13日)頁2。
- 56 「釣島遲至民國93年才登記我領土」『聯合報』(201年3月13日)頁2。

## 何とはなしの既視感

公益財団法人交流協会専務理事 井上 孝

馬英九総統は本年一月の総統選挙で大方の予想を上回る票差をつけて再選されましたが、再選するやいなや自ら政治アジェンダに載せた電力料金引き上げ問題や米国産牛肉輸入解禁問題の処理に手を焼いているようです。

今回総統選挙の経過を少し振り返ってみますと、国内問題での与野党の最大争点は、所得格差問題と並び、物価上昇問題でありました。このため、馬英九政権は物価抑制の実施に政府挙げて取り組む姿勢を選挙戦を通じて示しておりました。

また、対外面では、米国政府は当然のことながら介入を否定し、偶然に過ぎない等と説明していますが、投票日直前にかけて、米国政府高官の訪台や台湾を米国入国ビザ免除対象国候補者リストに載せることの公表が相次ぎ、さらには、AIT 元理事長が訪台し、蔡英文野党候補の主張する「台湾コンセンサス」の実現性に疑問を公言するなど、野党側から不満の声が出るような状況がありました。

このような経過の後、馬英九政権は、電力価格大幅引き上げや米国産牛肉輸入解禁を再選後真っ先に政治アジェンダに載せてきたわけです。

当然ながら、消費者や、与党委員を含めた立法委員の反発はかなりのものようです。

このような展開は、馬英九第一期政権の初期においてもあったなという既視感を禁じ得ません。

馬英九第一期政権が発足した直後、2008年9月には「毒ミルク事件」が発生し、対応の遅れが消費者からの強い反発を浴び、結局、当時の林芳郁衛生署長が更迭される騒ぎとなりました。また、2009年10月には、BSE（牛海綿状脳症）発生国である米国からは骨なし以外の牛肉輸入は認めない

との従前の政策を転換し、一定の条件の下に解禁するという議定書を総統府主導で米国と締結し、今度は消費者のみならず、一部閣僚、与党国民党籍の有力地方自治体首長や立法委員からも強い批判・反発を浴び、結局、国民党が圧倒的多数を占める立法院において、同議定書の内容を否定する食品衛生管理法改正案が可決される事態となり、問題は現在までも続くこととなってしまいました。

いずれも消費者からの強い反発を事前には読み切れなかったこと、直接の責任者の更迭、前回は衛生署長、今回は台湾電力董事長、に追い込まれたこと、また、与党立法委員の反乱を抑えきれなかったことなど、事態の紛糾ぶりはデジャブ（既視感）そのものです。

他方、客観的にみれば、台湾の電力価格が政策的に抑えられているため、台湾電力の財務体質は脆弱であり、省エネルギー・クリーンエネルギー化促進のために台湾電力による大規模投資が必要な時に深刻な足かせとなっていることは事実ですから、いずれかの時点でこの是正は必要であるように思われます。

また、台湾の安全保障においては米国の支えが不可欠であることは論を待たず、経済安全保障の面においても、将来の TPP 参加の条件整備のためには、米国との TIFA（貿易・投資枠組み取り決め）交渉を再開させる必要があります、このためには牛肉輸入解禁問題を解決しなければなりません。

今後の展開が注目される所以です。

なお、申しあげるまでもありませんが、以上はすべて筆者の私見です。

## 編集後記

この前まで寒い寒いと言っていたはずなのに、気がつけば桜の季節も終わり、今ではもう暦どおり初夏のような季節になってしまいました。人とは、寒ければ寒いで早く暖かくなれないかなと思ひ、暑ければ暑いで早く涼しくなれないかなと思ってしまう何てわがままな生き物でしょうか。1時間、1日、或いは金曜日終業までの1週間はとてつもなく長く感じることもあるのに、年齢のせいかもしれません。過ぎ去ってしまった時間の経過はとても早く感じる今日この頃です。ちなみに、“太陽の自転”は休日には何であんなに早いのだろう！と感じているのは私だけでしょうか！もしかするとこれは気のせいではなく本当に早いのでは・・・？ 誰かに証明してほしいものです。

さて、当協会では、今年の震災以降、夏場の電力不足の影響で、執務室の蛍光灯を半減しています。先日、久しぶりに事務所を訪問した方から「何でこんなに暗いの？」と言われましたが、日々働いている我々からしてみると、この明るさ(暗さ)には既に慣れてしまっており、何ら不自由は感じないこともあり今でも続けています。人間の順応する能力に改めて再認識させられております。

当協会においては、御多分に漏れず5月からクールビズを実施しておりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。この夏はどれ程の暑さになるかはわかりませんが、電力不足対応で体を労りながらクールビズで今年もがんばりましょう。折角クールビズでネクタイを外したのですから胸襟を開いて仲間とよく話し、たまには“飲みにケーション”もよいかもしれませんね。健康に気をつけながら、みんなで“いい加減”ではなく“よい加減”で乗り切りましょう。皆様引き続き節電へのご協力よろしくお願いいたします。

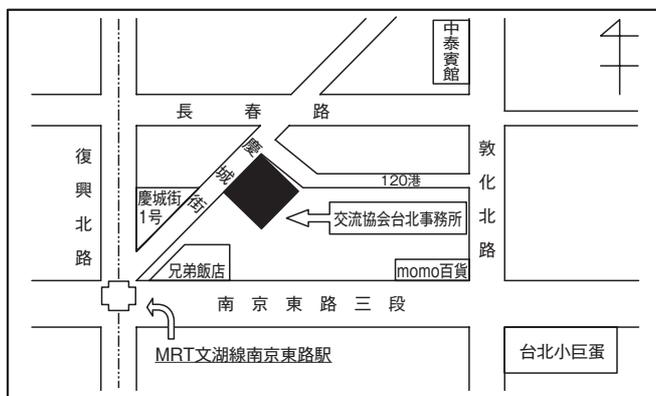
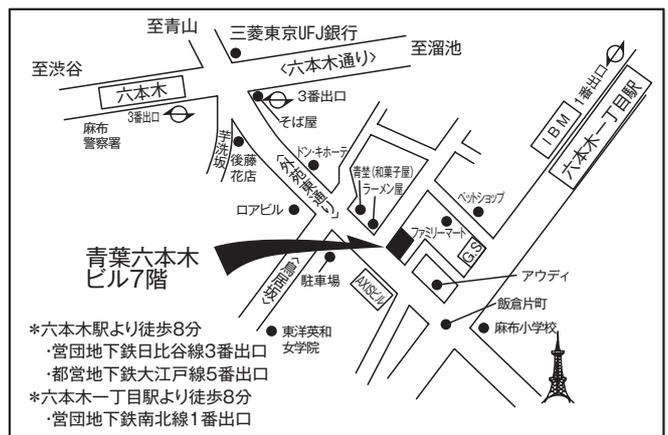
最後に私事で申し訳ございませんが、平成21年6月から交流協会にお世話になり、この6月で3年の任期が終了いたします。交流協会を去るにあたって、「交流」を読んでいたいている皆様に感謝申し上げるとともに、私論ですが「仕事は人と人が行うものでメールだけが勝手にやるものではない」と思っているなか、大過なく過ごせたのは、公私にわたって心より接してくれた交流協会の仲間が居てくれたお陰と心より感謝申し上げます。

結びに、「日台関係」とともに「公益財団法人交流協会」の更なる発展を心よりお祈りしております。ありがとうございました！ 謝謝・多謝！

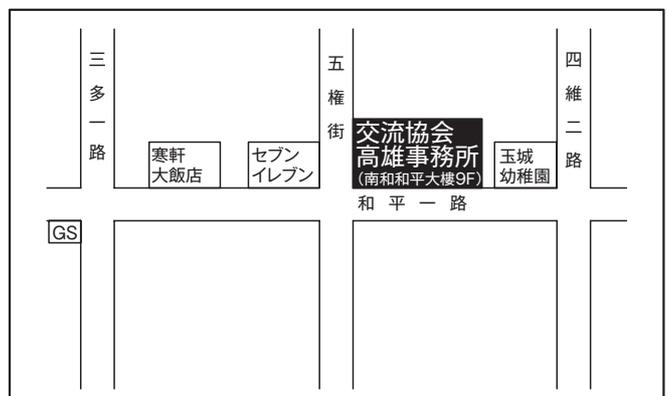
(総務部次長 井嶋 哲男)

平成24年5月25日 発行  
 編集・発行人 井上 孝  
 発行所 郵便番号 106-0032  
 東京都港区六本木3丁目16番33号  
 青葉六本木ビル7階  
 公益財団法人 交流協会 総務部  
 電話 (03) 5573-2600  
 F A X (03) 5573-2601  
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

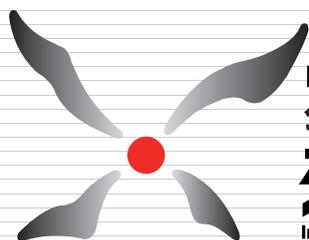
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社  
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓  
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei  
 電話 (886) 2-2713-8000  
 F A X (886) 2-2713-8787  
 URL <http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3 contents.nsf/Top>



高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号  
 南和和平大樓9F  
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan  
 電話 (886) 7-771-4008 (代)  
 F A X (886) 2-771-2734  
 URL <http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3.contents.nsf/Top>



日本と台湾との架け橋

公益財団法人

**交流協会**

Interchange Association, Japan (IAJ)

